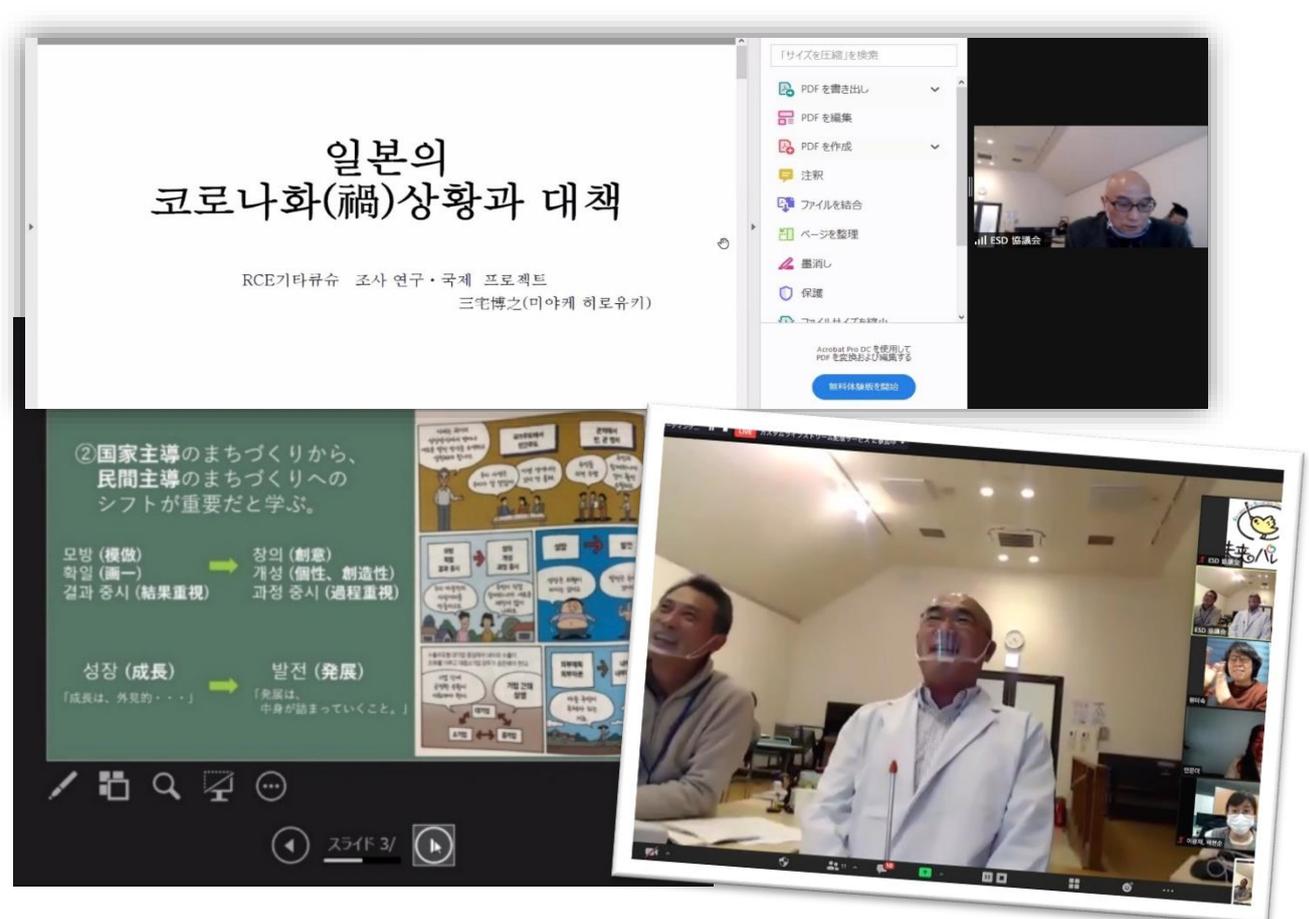


On-line

2020

韓国スタディーツアー 報告書



巻頭の言葉

「新たな脅威に簡単に屈することなく立ち向かう～それが、まさに ESD の精神！」

新型コロナが収束する気配も見えない現在、この報告書の巻頭言を書いています。世界各国・各地域で暮らし、時空を共有している人々にとって、このような多数の犠牲者を出した世界的規模の災禍は初めてのことでしょう。私たちは歴史の証人になりましょう。

ところで、北九州 ESD 協議会の調査研究&国際プロジェクトチームの主要プロジェクトの一つである韓国 ESD スタディツアーは海外との交流です。旅券を持って、国境を越えるわけです。よってそこには朝鮮半島という現場がありました。その現場から学ぶということの大前提にして成り立っていました。しかし、昨年度から人類の大脅威となった新型コロナ・ウィルスの感染拡大により、無残にもその大前提は崩されました。

そのため、実際に半島に行くという韓国 ESD ツアーは不可能になりました。今年度は見送られそうでしたが、世界のあちこちで web 会議や web 飲み会などが流行していたこともあり、今年度は web 上で韓国とつながろうとの提案があり、メンバー全員の賛成を得て web を通して交流ツアーを実施することになりました。同時に、今年度から新メンバーに二人の大学生が加わり、プロジェクトの中に斬新な息吹きを感じさせてくれました。二人は、今回の韓国ツアーでも積極的に主要な任務を請け負い、果敢にチャレンジして、プロセスや結果から様々なことを学んでいました。私たち旧のメンバーも感化され、幾分チャレンジ精神が増えてきたように思えます。北九州 ESD 協議会の会員、特に、調査研究&国際プロジェクトのメンバーは、それぞれに独自の活動を持っており、その合間に、北九州 ESD 協議会の ESD 活動を行っています。いかに ESD が好きで、また、韓国が好きな人々が多いかを示しています。

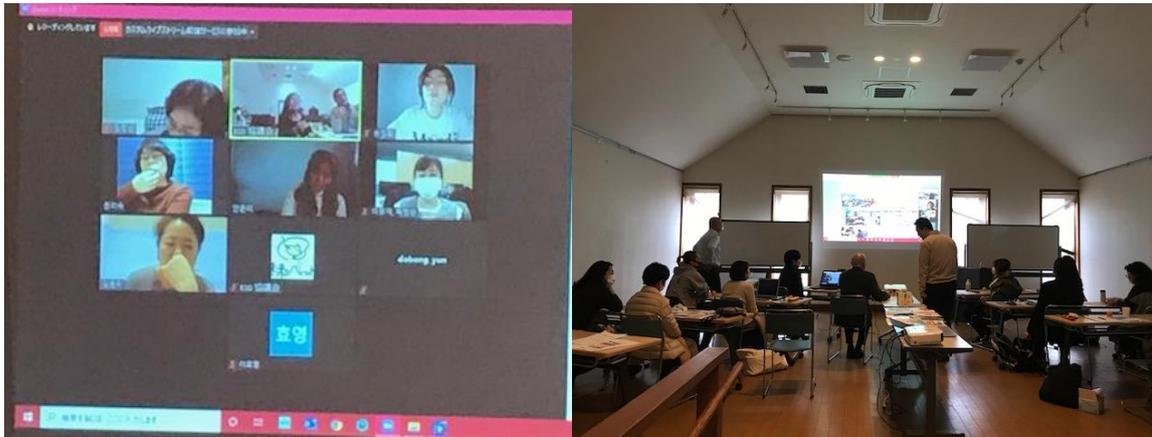
対する韓国側の RCE (ESD 地域拠点) である RCE ドボン区及び RCE インジェの人々からは、今回の web 韓国 ESD ツアーといった私たちの申し入れに快諾をいただきました。日ごろからの信頼関係がなければ、この新型コロナ禍の中での交流はなかったでしょう。韓国人の心のぬくもりややさしさを垣間見ました。今回は現場に行けない分、事前学習に力を入れました。韓国や ESD をもっと知っておこうとのことで、計 3 回事前学習会を行いました。まなびと ESD ステーションや生涯学習総合センターに直接足を運ぶことができない参加予定者には、web を通して事前学習会に参加していただきました。一応の準備をして、当日は宗像にあるグローバル・アリーナに集まり、1 日目は RCE ドボン区と話し合いました。ドボン区は、RCE に最近認定されたばかりで、北九州の大半の参加者がドボン区にはどのような会員がいるのか知っていませんでした。しかし、ドボン区はドラマのロケ地、双方とも映画の話になれば我を忘れて話に夢中になっていました。ソフト文化の力の強さ、魅力は国境を越えるとは、まさにこのことです。今回も報告書を皆で作成しました。会いたいけれど、今は我慢。それだけ胸に秘めた想いが本報告書に隠されていると思います。

北九州 ESD 協議会 調査研究・国際プロジェクトリーダー 三宅 博之



※ESD の訳と RCE の表記は下記のように国によって異なりますが、本報告書ではそのまま違いを尊重して掲載しています。

- ESD (Education for Sustainable Development)
日本では「持続可能な開発のための教育」が通例ですが、韓国では「持続可能発展教育」と訳しています。
- RCE (Regional Centres of Expertise on ESD)
日本はおおむね「RCE〇〇」、韓国では「〇〇RCE」と表記しています。



国境を越え、ともに考えよう！ 新型コロナ禍での ESD 活動を。

参加者・日程

27 感想

1 事前学習（全3回）

- ① 「82年生まれ、キム・ジョン」
もう観た？
- ② 지구가 아파요!
(地球が痛いです)
- ③ ESD for 2030

41 お礼のこトバ

42 参加者アンケート

アンケート結果
アンケート講評

11 オンライン交流会

RCE ドボン区発表
RCE インジェ発表
RCE 北九州発表
RCE ドボン区との質疑応答
RCE インジェとの質疑応答



ACKNOWLEDGED BY



**UNITED NATIONS
UNIVERSITY**

■「オンライン韓国スタディツアー2020」参加者（敬称略）

北九州市立大学 原 優衣、弥山 葵

日本赤十字九州国際看護大学 廣瀬 美海

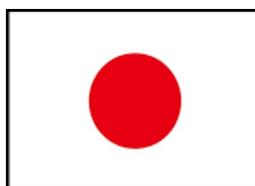
調査研究・国際プロジェクト 三宅 博之、花崎 正子、服部 祐充子

川島 伸治、細井 陽子、後藤 加奈子

北九州市環境学習課 稲田 佳代子

福岡県環境教育学会の皆様、アンニョンの会の皆様

北九州 ESD 協議会事務局 岩谷 かおり



■日程（1泊2日）

1日目：12月12日（土曜日）14：00～17：00

RCE ドボン区：大韓民国ソウル特別市道峰（ドボン）区

※2020年 RCE 認定

2日目：12月13日（日曜日）10：00～13：00

RCE インジェ：大韓民国江原道麟蹄（インジェ）郡

※2012年 RCE 認定

■宿泊地

グローバルアリーナ

所在地：福岡県宗像市吉留 46-1

福岡県における企業の CSR 部門であることから宿泊地に選定。スポーツ・文化を通じた青少年の健全育成・国際交流を推進している多目的スポーツ総合施設である。計画中に県内で宿泊する必要性について議論がなされたが、市民団体と企業が win-win の関係で協働する試みとして、宿泊を含むツアー形式で本事業を実施した。

※CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) 企業が倫理的観点から事業活動を通じて自主的 (ボランティア) に社会に貢献する責任のこと。

事前学習（全3回）

11/19（木） 19時～20時 オンライン まなびとESDステーション	事前学習① 「82年生まれ、キム・ジョン」もう観た？ 韓国文化に触れ、興味を持ってもらう入り口とする。 最新の韓流映画を題材に作品に潜む世界共通の社会課題に気づく。
11/26（木） 19時～20時 オンライン 北九州市立生涯学習総合センター	事前学習② 「지구가 아파요！（地球が痛いです）」 ESD・RCEの基礎知識を得る。 RCEインジェ作成アジェンダ（漫画本）を翻訳しその取組みを学ぶ。
12/3（木） 19時～20時 オンライン まなびとESDステーション	事前学習③ 「ESD for 2030」 ESD for 2030「ESDはSDGsの達成に不可欠な実施手段である。（a key enabler of all the other SDGs）」を理解し、国際的な取組みを知る。

事前学習①「82年生まれ、キム・ジョン」もう観た？

発表者：服部 祐充子

「読んでから観るか？観てから読むか？」

3回の事前学習の企画で昨今第4次韓流ブームを受けて映画やドラマの話題も本事業に関心を高めてもらうために取り入れてみようとの試みをする事になりました。

担当者を誰にするか？内容をどのようにするか？担当者に一任ということでわたくしが「東田シネマ」や「旅するシネマ&カフェ」という映画の上映活動を展開していることもあり、やらせていただくことになりました。とはいえ、作品を決めるとなると、日頃は海外のドキュメンタリー作品を紹介することが多いので、韓国映画でESDで話題性もあるものとは？？と思うとなかなか難しいものでした。「国家が破産する日」「1987 ある闘いの真実」「スイング・キッズ」などなどドキュメンタリー色の強い作品も見てきましたが、韓国のみなさんと交流の折に話題にするにはやや政治色の強さへの偏りも感じてしまいます。日本と韓国、できれば世界への視点も含んだものを・・・と考えているうちにひらめいたのが「82年生まれ キム・ジョン」でした。世界的に大ヒットした「トッケビ」の主演俳優コン・ユと「トガニ 幼き瞳の告発」のチョン・ユミと大スターを登場させてのミニシアターではない全国のシネコンで上映された作品をご紹介しますことにしました。世界的に知られた二人の社会課題への視点も相まって淡々と描かれてはいても底流に流れる社会課題を導き出す緊張感が、大変に説得力のある作品となっていました。美人女優と評されることの多いチョン・ユミのほぼノーメイクの演技も韓国の普通の30代の女性らしさを大いに表現していました。

参考：「82年生まれ キム・ジョン」ストーリー

結婚・出産を機に仕事を辞め、育児と家事に追われるジョン。常に誰かの母であり妻である彼女は、時に閉じ込められているような感覚に陥ることがあった。そんな彼女を夫のデヒョンは心配するが、本人は「ちょっと疲れているだけ」と深刻には受け止めない。しかしデヒョンの悩みは深刻だった。妻は、最近まるで他人が乗り移ったような言動をとるのだ。ある日は夫の実家で自身の母親になり文句を言う。「正月くらいジョンを私の元に帰してくださいよ」。ある日はすでに亡くなっている夫と共通の友人になり、夫にアドバイスをする。

「体が楽になっても気持ちが焦る時期よ。お疲れ様って言ってあげて」。ある日は祖母になり母親に語りかける。「ジョンは大丈夫。お前が強い娘に育てただろう」

——その時の記憶はすっぽりと抜け落ちている妻に、デヒョンは傷つけるのが怖くて真実を告げられず、ひとり精神科医に相談に行くが・・・。

※公式ホームページから抜粋 (<https://klockworx-asia.com/kimjiyoung1982/>)

標題の「観てから読むか？読んでから観るか？」でお分かりのように、本作品は大ベストセラー小説の映画化作品なので小説と比較して観ることが一層面白さを楽しめることをお伝えしておこうとのこと。韓国ではウェブ漫画やウェブ小説からの映画化、日本の漫画やドラマ、台湾など同じ東アジアのリメイク作品のドラマも多く、加えて「劇場に足を運び映画を観る」という行動が日本の私たちよりは格段に高い韓国の皆さんのようです。金大中政権の頃からのエンターテインメントへの政策としての注力がここにきて大きく花開いていることを否が応でも感じるところです。その結果の一つとして生まれた「82年生まれ キム・ジョン」の特筆される場所は「韓流文学」を世界に知らしめたことだろうと思います。

事前学習の準備の際に映画のことに併せて文学作品としての本作についての資料を集めてみたところ、出版社の編集者たちの対談や出版社のインタビュー記事など多数存在することを知りました。人口 5000 万人ほどの母国語としての言語から世界に広がりを見せる「韓流文学」として確立されようとする瞬間に立ち会っていることに気づかされたのです。事前学習の素材にとひらめいた本作品を選択したことは、ESD の人権やジェンダーについて取り上げるにはふさわしい素材であり、発信されたのは東アジアの韓国からだとしても、受け取った世界の国々においても「女性の生きづらさ」は存在しているだろうとのことでした。映画関係でみるとハリウッドでも有名プロデューサー、監督たちによるセクハラやパワハラ、世界に瞬くまに広がった「ミートゥー運動」のことは記憶に新しいです。21 世紀に入り人口の半数は女性であろう社会で「女性の生きづらさ」が消えていないこと、あまりに長く続いてきた文化や習慣の中に巧みに生き続けている仕組みとして、女性への差別や圧力が小説と映画の本作品が浮かび上がらせてくれたようです。今回の準備の大半は、これまでにわたしが観てきた数百の映画とここ半年ほど観てきた韓国ドラマからの情報をもとに、韓国の現代史の中の映像作品の位置づけと国内にとどまらないドラマの数々の意味するところを読み解くことでした。

「キム・ジョン」の名前は 1982 年に韓国で最も多く付けられた女の子の名前であることに象徴され、女子大生の進学も就職も激しい競争の連続であり、就職しても結婚を機に退社を選択せざるを得ないふつうの女性たちの置かれている現実。また、「ガラスの天井」（最近この言葉を違う解釈で語っていた政治家がいましたが）を例に出すまでもなく、日本での女性たちの現状と重なることがキム・ジョンを読む層の広がりとなっているようです。またそこに韓国の K-POP のアイドル達（Red Velvet のアイリーン、少女時代のスヨンや BTS の RM）が紹介していたことも時代の波と併せて世界中に広がる K-POP ファンに求められることも大きく影響しているのでしょう。

事前学習当日は 20 分程度なので映画そのものに触れる時間はあまりないと考え、ならば韓国の映像作品に込められているメッセージを受け取り、日本で、北九州でローカライズしつつ観ることができれば ESD の学びのツールとして映画は十分ふさわしいものだとお伝えしようと思いました。今回の企画を担当させていただいたことで韓国映画・ドラマ・文学への関心を持たせていただけたことが予想外の収穫でした。ここを起点にまた映画・ドラマをテーマにする機会があればと期待しています。

今後、韓国内の RCE の方々との交流の折には映画、ドラマで文化や思考を深めていきたい思いを強く持てたこの機会に感謝です。

参考記事：『82 年生まれ、キム・ジョン』の周辺で起こった出来事

『82 年生まれ、キム・ジョン』は、韓国で 2016 年 10 月に刊行された。当初は担当編集者も 1 万部はいかないと予想していたが 1 年足らずで 10 万部を突破することになった。本作は、キム・ジョン氏（韓国における 82 年生まれに最も多い名前）の誕生から学生時代、受験、就職、結婚、育児までの半生を克明に回顧していき、女性の人生に当たり前のようにひそむ困難や差別が淡々と描かれている。「そして彼女はある日突然、自分の母親や友人の人格が憑依したように振る舞い始め——」。彼女を抑圧しつづけ、ついには精神を崩壊させた社会の構造は、日本に生きる私たちも当事者性を感じる部分が多々盛り込まれている。韓国ではその共感性の高さから、国内だけで 130 万部という異例の大ベストセラーとなった。K-POP アイドルなど影響力のある芸能人が度々話題にしたことでも注目を集めたが、ガールズユニット、Red Velvet のアイリーンが本書を読んだと発言したところ、一部男性ファンが「アイリーンがフェミニスト宣言をした」として一斉に反発、アイリーンの写真やグッズを破損する様子を動画投稿サイトに投稿するという事態も起きた。アイリーンだけでなく、少女時代のスヨンや BTS の RM も『82 年生まれキム・ジョン』に言及している。

2018 年 1 月、少女時代・スヨンは YouTube を介して放送されたリアリティ番組『90 年生まれチェ・スヨン』で「読んだ後、何でもないと思っていたことが思い浮かんだ。女性という理由で受けてきた不平等なことが思い出され、急襲を受けた気分だった」と。BTS・RM も昨年、NAVER の V ライブ生放送を通じて「示唆するところが格別で、印象深かった」と本書にコメントを寄せた。さらには韓国の国会議員が文在寅大統領の就任記念に「女性が平等な夢を見ることができる世界を作ってほしい」と手紙を添えてプレゼントするなど、国全体に及ぶ社会現象を巻き起こしている。この反響から、本書を原作として韓国の人気俳優コン・ユ、チョン・ユミ共演で映画化もされ、主人公キム・ジョンを演じるチョン・ユミとその夫役、チョン・デヒョンを演じるコン・ユは「トガニ 幼き瞳の告発」「新感染ファイナル・エクスプレス」に続き、3 作目の共演。キム・ドヨン監督が手がけ、韓国で公開後 1 か月で 350 万人突破の大ヒットとなった。アメリカ、イギリスでも順次公開予定、日本でも 2020 年 10 月 9 日（金）に新宿ピカデリー他全国で公開された。中国・台湾でもベストセラーとなり、アメリカ、イギリス、フランス、ベトナムなど 25 か国・地域での翻訳化も決定。世界的な注目作となっている。

事前学習②「지구가 아파요 ! (地球が痛いです)」

発表者：弥山 葵、後藤 加奈子

「漫画で伝える、誰にでもわかる、具体的に未来を描く。」

事前学習は韓国を知り、韓国との交流に興味をもってもらうきっかけづくりとしました。本当はESDを知ってもらいたいのですが、まずはわかりやすい入り口を設ける工夫をしました。私たちが事前学習のそのまた事前にしなければならなかったのは、2017年に作者のチョン・ソンホン前理事長からいただいたRCEインジェのアジェンダを漫画で表現した270ページの冊子の翻訳でした。いつかはやろうと思っていた翻訳でしたが、一人ではどうもできません。今回、調査研究・国際プロジェクトに入ってくれた北九大の弥山さんと一緒に取り組みました。また、北九州ESD協議会会員以外の参加者もあり、ESDやRCEの理解のため、その説明を冒頭で行いました。

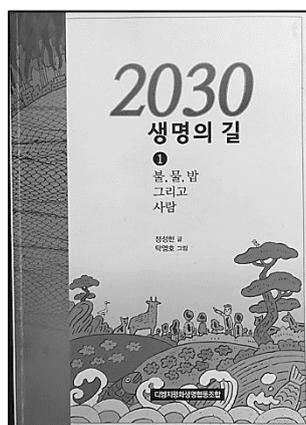
○ESDやRCE等、参加者に向けての基礎的な学習

<p>■ESD</p> <p>ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。</p> <p>今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。</p> <p>つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。/文部科学省</p>	<p>REPUBLIC OF KOREA</p> <p>チャンウォン ●スタディツアー</p> <p>RCE Changwon</p> <p>ドボン区</p> <p>RCE Dobong-gu</p> <p>インチョン</p> <p>RCE Incheon</p> <p>●RCE Inje インジェ</p> <p>トンヨン</p> <p>●RCE Tongyeong</p> <p>●RCE Ulsan ウルチュ</p>
--	---

出典：文部科学省ホームページ

RCE(Regional Centres of Expertise on ESD) 国連大学認定のESDを地域で実現していくための拠点

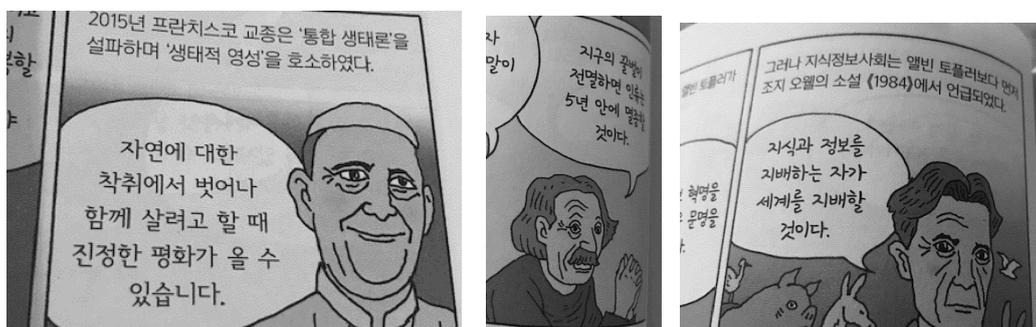
○「2030 生命の道・火、水、飯そして人」



차례	目次
작가의 말	●作者の話
추천사	●祝辞
1부	●第1章「地球が痛いです」
지구가 너무 아파요	
17	●第2章「生命社会にむけて」
2부	
생명사회를 향하여	●第3章「詳細を調べてみましょう」
65	
3부	●第4章「幸せな村、生命の村、私たちの力で創る」
자세히 알아봅시다	
169	
4부	
행복한 마을, 생명 마을	
우리 힘으로 만듭니다	
195	

第1章「地球が痛いです」というタイトルから推測できるように、地球温暖化やエネルギー、食糧問題など地球環境の現状が描かれています。インジェは軍事境界線（38度線）に隣接しており、人間がむやみに立ち入れない非武装地帯では自然環境が保たれています。地球規模の課題を提示するとともに、自然環境保護という地域性を活かした問題提起がなされています。インジェでなぜESD（持続可能発展教育）が必要とされているかを説明している章とも言えます。ここで、冊子副題の「火・水・飯そして人」はエネルギー問題・環境問題・食糧問題・社会問題のことだ！と、はたと気づきました。

第2章「生命社会に向けて」では、自国の歴史と世界の歴史を並列に描きながら、民主主義の起こりや人種差別など「発展」による人間社会の課題を捉えています。アインシュタインやフランシスコ教皇の言葉を命題的に用い、命とは何か、平和とは何か、時空を超えて読み手に向け問いを立てています。



「自然の搾取から脱して生きようとしたときに真の平和が訪れる。」
2015年フランシスコ教皇

「地球上のミツバチが全滅すると5年後人類も滅びるだろう」アインシュタイン
「情報と知識を支配する者が世界を支配する」小説「1984年」ジョージ・オーウェル

第3章「詳細を調べてみましょう」では、ESDを取り扱う場面で最も重要な「データに基づいた検証」がなされています。ゴミの排出量や一日の水の使用量などを表や図を使って説明していますが、注目すべきは自国だけでなく、世界各国のデータも用いグローバルな視点を持つよう示唆しているところです。

第4章は「幸せな村、生命の村、私たちの力で創る」です。ここで2030年のインジェのあるべき姿=ビジョンが出てきます。韓国ではSDを「持続可能な発展」と訳しています。産業革命以降の時代に生まれた私は、発展というと都市開発のイメージがどうしても頭から離れません。昭和の時代、日本では山が崩され、高速道路や鉄道が次々に開通し、高層ビルがニョキニョキと出現しました。それが「発展」だと思っていましたが、今になってみれば、決して持続可能ではない発展だったと言えます。

さて、インジェの「持続可能な発展」とは……。それは農業における構造改革でした。「私たちの力で創る」というタイトルにRCEインジェの強い決意が感じられます。

「私たちの村 発展計画」



○まとめ

ESD で育みたい力は①持続可能な開発に関する価値観、②体系的な考え方、③代替案の思考力、④データや情報の分析能力、⑤コミュニケーション能力、⑥リーダーシップの向上です。RCE インジェは本の中で見事に「ESD で育みたい力」を網羅し、理論的にビジョンを掲げています。2030 年のあるべき姿を示し、確実に実現化に向かっていきます。しかも、自らの手で。

その事実は本報告書の「オンライン交流会（14 ページ）」の項で証明されています。

事前学習③「ESD for 2030」

発表者：三宅 博之、塚本 美紀

第3回目を迎えた事前学習会では、国連 SDGs の最終年にあたる 2030 年に向けて、ESD にどのようなことが求められているのかを示した「ESD for 2030」の説明、さらには、昨年からの感染拡大が全世界に急速に広まった新型コロナ禍に直面して、その中において世界の RCE がどのような ESD（持続可能な開発のための教育）に取り組んでいるのか、もしくは模索しているのかについての発表が行われた。

まず、ESD for 2030 を担当した三宅は、そもそも、ESD とは何かの概念説明をして、その中で ESD によって獲得される能力・スキル、用いられる方法、さらには醸成されるべき価値について、ESD-J の資料を用いて具体的に述べた。さらに、ESD の歴史に踏み込み、1980 年代の SD（持続可能な開発）概念の登場に端を発し、1992 年にブラジルのリオデジャネイロで開かれた「環境と開発に関する国際連合会議（UNCED:United Nations Conference on Environment and Development）」が開催されたことが紹介された。最終的には 2002 年に南アフリカ共和国のヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD: World Summit on Sustainable Development）」にて、日本政府と NGO によって ESD が提唱され、それが加盟国の支持を得て、2005 年から 2014 年まで「国連持続可能な開発のための教育の 10 年（UNDESD）」と具体的な形として採択され、実施される運びとなった。2015 年には国連で SDGs が採択されている。

ESD は、GAP (Global Action Program) に引き継がれ、取り組むべき 4 課題を設定し、ESD を推進していった。GAP 以降、ESD は、ESD for 2030 に変わり、ようやく、2030 年までのロードマップが示されることとなった。本来は、2020 年 6 月のベルリンで ESD に関するユネスコ世界会議が開かれ、ESD for 2030 についての話し合いがもたれる予定であったが、新型コロナ禍の影響で中止になり、今年（2021 年）5 月に延期されたことの言及があった。よって、今回ではさほど詳しい発表はなされなかった。柱は GAP を踏襲していて、SDGs の追求が強調されている。

SDGs との関係性では、80 年代に現れた持続可能な開発の概念は、基本的に社会・経済・環境の 3 つの分野から構成されていたが、SDGs では、その 3 分野の中にさらに詳しく位置付けられる 17 の目標が設定され、ESD はその SDGs を達成する主体である人材を養成する手段と認識されるようになったことが述べられた。

後半は、塚本が「RCE アジア太平洋地域と COVID-19」と題する発表を行った。新型コロナ禍の中、RCE アジア太平洋地域では、多くの緊急オンライン会議が開催されるよう

になった。2020年5月14日、6月9日、6月11日には'ESD Action in COVID-19 Era: Experiences of RCEs of the Asia Pacific Region'というテーマで実施され、5月14日には、新型コロナ禍におけるRCE北九州の取り組みについて発表した。34のRCEが発表し、あらゆる国や地域で、新型コロナウイルス感染症が影響を与えていることがわかった。6月25日には、'Bridging the Disconnect - Engaging and Learning in the Digital Divide'というテーマで行われ、情報機器へのアクセスが限定的な人々へのアプローチをどうするかについて話し合われた。

国際ユースデーである8月12日には“*Youth and Sustainability in COVID Era*”というテーマで実施され、北九州ESD協議会のメンバーである西南女学院大学ゴールドエンZクラブが新型コロナ禍の中で行っている活動の工夫やその中で学んだことなどについて発表した。どれも急遽開催されたオンライン会議であったが、多くの国からたくさんの方が参加し、それぞれの地域での取り組みについて話し合った。このようにそれぞれの地域の問題を世界的な視野を持って考えることができる場としてRCEのネットワークはかけがえのないものであることを再確認した。

二人の発表を受けて、新型コロナ禍の中でESDの取り組み方も変わってこようとしていることが理解された。人の移動が容易にでき、グローバル化が急速に進みつつあった時代において、新型コロナ禍の影響で、人の移動は止まり、それに代わるonline技術や市場の成長により、より綿密に異なる世界と結び付けるようになった。参加者の大半が、世界の動きを把握しながら、世界のESD推進者とともに歩んでいく必要を痛感したことと思われる。

オンライン交流会

12/12 (土) 14 時～15 時	RCE ドボン区発表 「持続可能発展教育 (ESD)」 発表：ドボン区庁持続可能発展教育課主務官 ペ・ヒョンスン氏 報告：川島 伸治
12/13 (日) 10 時～11 時	RCE インジェ発表 「持続可能なインジェ！持続可能な人類！」 発表：RCE インジェ事務局長 キム・チャンフム氏 報告：川島 伸治
12/12 (土) 15 時～16 時 12/13 (日) 11 時～12 時	RCE 北九州発表 「コロナ禍での大学生を中心とした ESD 活動について」 発表・報告：原 優衣 (北九州市立大学 1 年) 「新型コロナの日本と北九州の状況と経済的影響」 発表・報告：三宅 博之
12/12 (土) 16 時～17 時	RCE ドボン区との質疑応答 報告：川島 伸治
12/13 (日) 12 時～13 時	RCE インジェとの質疑応答 報告：川島 伸治

ORCE ドボン区 「持続発展教育 (ESD)」

報告：川島 伸治

RCE ドボン区は、RCE 認定のための準備委員会、持続可能発展委員会、持続可能フォーラムなどが協力して様々な活動をして来ており、2020年1月にRCE認定を受けている。現在は、小学生向けの教材開発等ESDを地域住民や様々なステークホルダーに広めながら、市民の意識改革を行っているとのことであった。

RCE ドボン区からの取組み内容はソウル特別市ドボン区持続可能発展課のペ・ヒョンスン主務官から紹介があった。概要は以下のとおりである。

ソウル特別市ドボン区はソウルの最北に位置しており、倉洞、道峰洞、双門洞、放鶴洞という4つの洞（地域）で構成されている。ドボン区役所内に持続可能な発展課を設置し「ドボン区持続可能な発展目標（SDGs）基本計画」に沿ってESDを展開している。政策目標としては①経済改革都市、②世代共感都市、③気候変動対応都市、④教育文化都市、⑤自治分権都市の5つを挙げている。

持続可能な発展への取り組みは2011年から始まっており、2015年には韓国の基礎自治団体として最初の条例を制定し、2016年には全国で初めて全体調査を実施、翌2017年に官民協働でSDGsを採択、2019年には行政組織の中に「持続可能な政策課」を設けることになった。

2019年から国連大学にRCE認定を申請し、2020年に正式に認定された。



また、持続可能な政策課から持続可能な発展局になり組織が拡大され、持続可能な発展局は5つの課（持続可能な発展課、新経済仕事課、環境政策課、都市再生課、資源循環課）で組織されている。現在RCE認定を受け、様々な施策を進めており、オンラインで開催された「第13回アジア太平洋RCE地域会議（2020年）」にも参加している。

ドボン区持続可能発展目標基本計画のビジョンは「人と自然が調和し、すべての人が住みたくなるドボン区」であり、基本計画では①気候変動、②教育文化、③保健福祉、④経済産業、⑤制度行政の5つの戦略があり、SDGsの17目標と紐づけされている。

また、2017年からESDを推進するため、埋もれている優秀事例を広める取組みをしており、2018年「ユネスコ持続可能発展教育（ESD）公式プロジェクト」に認定され、2020年には「持続可能発展優秀機関賞（4年連続受賞）」に選定されている。

ここで、2018年に認定されたユネスコ認定公式プロジェクトを紹介いただいた。一つは環境政策課が行っている「世帯を繋ぐ気候変動対応教育」、もう一つは教育支援課が行っている「ドボン型マウル放課後活動」であり、違う部署が同じような教育プログラムを実施している。



現在は、1年次プロジェクトとしてESD教材開発を行っており、また住民に向けてコロナ禍でのオンラインによる「持続可能発展大学」を開催していた。ESD教材開発では、学習のつながりについて分析のために、小学校教員の意識調査を行っている。また、行政、学校教員、学習サークル関係者等、官民協働で教材を開発し、専門家に監修を依頼して、精度を上げることも行っている。教材は3、4年生対象と5、6年生対象の2種類作成し、興味を抱くようなイラスト、ゲーム等を用いるとともにドボン区の地域の特徴を反映させているとのことであった。

他の組織との連携も行っており、2020年の世界グリーン消費者の日には、ドボンマウル教育社会的協同組合とマスクづくりワークショップを開催している。また、ドボン環境教育センターとESD教材のモニタリングも行っている。現在、RCEドボン区のロゴをソウル文化高等学校コンテンツデザイン課の学生と一緒に作成しているとのこと。RCEドボン区では、世界的な課題であるコロナ感染症に対し、低所得者へのマスク配布など、自治体主導型のメリットを活かして対応しているとのことであった。



RCE ドボン区は、SDG4.7 に向けて取り組んでいるが、ESD や SDGs という言葉が出てくる以前から、ドボン区ではこれまで多様な持続可能な発展のための活動をしてきているとのこと。今後もドボン区が持っている人的、物理的、社会的な資本を発掘し、それらと連携しながら、RCE としての運営基盤を持続的に構築していきたいということで、RCE ドボン区の実践を走る自転車に例えている。自転車が走る地面は生涯学習、前輪は世界市民意識、後輪がESDであり、今後もこれらを成熟させるとともに、RCE 北九州とも良い関係を築きながら一緒に頑張っていきたいとのことであった。

ORCE インジェ 「持続可能なインジェ！持続可能な人類！」

報告：川島 伸治

RCE インジェは、2012年に国連大学からRCEの認定を受けており、地域の特徴としては、北朝鮮との軍事境界線(DMZ)があり、軍、文科省関連施設との民軍業務協定を結び共に活動していることである。こうした取り組みにより2016年に「全国マニフェスト競進大会最優秀賞」を受賞、シンナン高等学校の生徒の活動が評価され「環境大臣賞」も受賞している。また、インジェ郡を流れる河川の環境保全活動も盛んに行っており、このような地域におけるESD活動を実践している。このようなRCEインジェは、①化石燃料大量消費から自然エネルギーへの転換、②RCEインジェの軸である平和・生命の教育、③自然生態系を保



全しながら復元していく活動、④生命に良い生産活動、⑤節約やゴミ減量化など循環可能な消費活動という5つの実践課題を設けている。

教育活動では、年に8回「インジェ郡革新リーダー養成教育」という一泊二日の合宿研修を実施している。これは環境、社会、経済、持続可能な発展、地域共同体についての教育プログラムで、実際にその成果をインジェ郡の政策に反映させているとのことであった。

次に、学校などで自然学習を担当されているキム・スジンさんから説明があった。

2019年に学校に小さな畑を作る活動を行ったが、今年はコロナ感染症の影響で学校に入ることが出来ない時期があった。今関わっている学校は全校生徒19名、月に1回、生態環境学習を行ったとのこと。コロナ禍での活動は遠出が出来ないので、学校内にあるものを対象にして生態環境学習を実施し、植物、動物、昆虫等のつながりを考えて学校内の環境生態地図を作成したとのことであった。

また、地域の幼児に向けて絵本の読み聞かせをしており、この活動は今年で4年目になるとのこと。絵本のテーマは環境、平和、文化、生命等幅広く、今年はコロナ感染症の影響があったが、ソーシャルディスタンスを保ち3園、6クラスに読み聞かせを行った。韓国ではコロナ感染症を「コロナ19」と呼んでおり、学校によっては外部講師の授業を制限しているところもあるが、絵本の読み聞かせは人と人の距離を保って静かに行う活動なので、なんとか今年も継続することが出来たとのことであった。絵本の読み聞かせ活動の強みは、幼児を対象に持続可能な発展の意義を伝えることが出来ることである。

シンナン高校では学校の中の資源を利用し、学生が水の浄化装置を作っており、これを「適正技術」と言い、太陽光、水、紙の再生活用を行っているとのこと。また、ウォントン高校では、ビデオ制作を通して地域の課題を発見し、課題解決について話し合う活動をしており、交流会当日も先生と生徒は地域を回って撮影をしているので、残念な



がら交流会に参加できなかったとのことであった。

その他の高校生の活動としては、多文化家庭や共働き家庭の子どもを対象に、週末の午後1時から5時まで、子どもたちと一緒に過ごす活動をしており、博物館や美術館に出かけたり、平和、生命をテーマとした絵本の読み聞かせをしているとのこと、高校生が持続可能な発展について子どもと一緒に学び合っている。

次に、在来種のタネの保存活動として、今年はミニトマトを収穫し、集中豪雨で打撃を受けた家庭にミニトマトを寄贈したとのこと。この活動は4つの高校が行っており、今年で4年目を迎えるそうだ。インジェ郡の4つの高校は、一緒にサークル活動を行っており、今年は観光釣り堀が環境に与える影響について認識調査を行ったとのこと。

今はコロナ禍で集まって活動するのは制限されているので、自宅でできる活動「温室効果ガス削減チャレンジ」に取り組んでおり、使い捨てゼロ、食べ残しゼロ、待機電力削減、節水、野菜を一品目増やして肉食を減らすなど個人でできる活動を行い、撮った写真をSNSにアップし拡散しているとのことであった。

地域住民を対象として、在来種の保存のために2年にわたって調査を行っている。世界的に在来種が消えつつあるという問題が発生しているが、韓国も同じとのこと、在来種のタネで作物を作っている農家は少なくなっている。在来種にはその地域の風土、水、人々の愛情が含まれており、私たちが直面している気候変動の問題で特に留意すべきなのは在来種の保存だと考えているとのこと。

調査方法は農家を訪問し、対面で話を伺っているが、コロナ感染症のため2月で活動が止まっており、今出来ることを模索し、農家の方から頂いたタネをウォントン高校と平和生命の丘に植えることにした。少しずつ芽が出始めているところである。インジェの在来種の小豆はとてもおいしいという評判だそうだ。

インジェ郡の住民組織・支援協力を通じた持続可能な社会の構築について、「インジェ



千里の道」という活動では、山村の歴史ある街道を歩きながら地域の過去や現在を知る目的で毎週土曜日、20人～30人が参加しており、コースは34ほどあるとのこと。

その他には「インジェ郡独立運動家探し本部」を組織編成し、独立運動家を発掘しており、インジェ郡では10名ほど確認されていたが、組織を作っ

らは 98 名の運動家がいることが分かったとのこと。人材の発掘だけではなく、子孫に伝える活動や祖国のために尽くした功績を表明して国から「国家友好者」という認定をしてもらうことも行っている。また、「インブク川の環境と生命を守る市民の集い」は、現在 120 名の会員が所属しており、濁流や泥水が出ている原因を探る水質調査を行っている。河川の上流で地滑りが起こっていることが分かり、災害防止のために 2,000 株の植物を植え、その財源は会費で賄っているとのことであった。

インジェ郡の山村地帯の交通手段は限られており、不便な上に料金も高いので、人々の暮らしに影響している。課題解決に向けてグループを作って、政策提言を行ったとのこと。その結果交通問題は改善され、この活動が RCE の 2014～2019 年度グッドプラクティスに選ばれたとのことであった。

交通手段ばかりでなく、山村の医療体制も大きな課題である。地方の小さなまちは教育と医療が脆弱であるため、医療にターゲットを絞って乳幼児、妊婦、障がい者、高齢者を対象に実態調査を行い、民間部門で 2 年かけて 300 人のサンプルを調査したとのこと。現在は調査結果を検証し、政策提言をするため協議会を発足させるところまで来ており、この活動の経緯などを RCE 北九州と共有したいとのことであった。

文化を通じた地域活性化について、今年度は 5 か所で伝統太鼓の公演を行ったとのこと。伝統太鼓の活動には大きな意味があり、インジェ地域内には北朝鮮との軍事境界線があるが、分断を超えて平和を構築するために、国境を越え、太鼓の演奏とともに、インジェの人たちの声を届けたいという思いが込められているとのことであった。

広報活動としては、インジェを代表する動物のカワウソのキャラクター「ZERO(ゼロ)」作りを始めており、名前の由来は、温室効果ガスの排出をゼロにする、PM2.5 をゼロにする、ゴミをゼロにする、使い捨てをゼロにする、から来ているとのことであった。



広報活動では学生が活躍しており、インジェ産の農産物を高校生が SNS にアップしたり、使い捨ての削減を目指して、アイスパックを回収しリサイクルをしているとのこと。また、活動を伝えるパネルを作成し、祭りやイベントなどで展示しているそうである。

最後に、地域の教育施設との協力事業として、小学生を対象に、故郷の農産物を知る学習をインジェ郡教育支援庁の協力を得て行っており、また、インジェ郡文化財団とはわがまちの文化の象徴を公募で集め、「インジェ郡文化象徴 100 選」という冊子を発行したとのことであった。

○韓国 RCE の発表について (考察)

川島 伸治

今年の韓国スタディーツアーは、ソウル特別市道峰区と江原道麟蹄郡という好対照の RCE との交流となった。都市部の RCE ドボン区は政治主導で ESD の普及活動を行い、行政部局、教育部局などに ESD を浸透させている。ドボン区長自らが先頭に立って ESD の実践に尽力する姿を見せている。

一方、地方部の RCE インジェは「平和生命の丘」という教育施設を中心に、行政と市民が協働して ESD を実践している。地域の文化や産業の振興を意識した取り組みも多くみられる。一見異なった実践手法のように見える双方の RCE であるが、その根底に流れている共通理念がある。「地球市民教育」(GCED: Global Citizenship Education) である。

ESD を所管する国連専門機関ユネスコでは、ESD と GCED を最優先課題と位置づけて基幹教育プログラムとして取り組んでいるとのこと。また SDG4.7 においても ESD と地球市民性が「質の高い教育」の本質要件として併記されていることから ESD と GCED の共通性が見える。ESD という概念を広げようとしている日本と、GCED という概念を広げようとしている韓国。今後も交流を重ねる中で ESD と GCED のキーコンピテンシーとしての役割りを相互の市民レベルで果たせるよう確かな信頼関係を続けていきたい。

ORCE 北九州 「コロナ禍での大学生を中心とした ESD 活動について」

発表・報告：原 優衣

内容：コロナ禍での北九州 ESD 協議会の活動

大学生の生活の現状

大学生の留学の現状

準備段階：北九州 ESD 協議会の今年度の活動についてのデータを活用

ネットや大学生へのインタビューを通じたデータ、意見収集

留学の実態や各大学の現状を調べた。

パワーポイントや原稿をわかりやすく工夫

本番：1 文につき通訳と交互に発表

1 日目ドボン区、2 日目インジェ郡

良かった点：コロナ禍での北九州 ESD 協議会、大学生の現状を伝えることができた。

反省点：説明だけの部分が多かった→具体的な内容や写真、動画を活用したパワーポ

イント作り

データの参考先についての入れ忘れ

発表がうまくできなかった→原稿の印刷や通訳との打ち合わせ、発表の練習

質問に対しての受け答え→それぞれの項目に関して受け答えができる人を選

別しておく

ORCE 北九州 「新型コロナの日本と北九州の状況と経済的影響」

発表・報告：三宅 博之

新型コロナ・ウィルスの感染拡大は、今年の 2 月ぐらいに観測できるようになり、現在、第 3 波に突入しつつあることを指摘しつつ、日本の新型コロナ・ウィルスの感染拡大の影響がどのように経済社会活動に影響を与えたのか、さらに、政府はどのように対策を取り、民間レベルでもその中においていかに ESD 活動を進めたのかを発表した。

最初に、感染者数の推移を示したグラフから、2020 年 4 月から 5 月にかけて第 1 波の感染者の増加があり、7 月から 8 月に第 2 波、11 月以降は第 3 波が来ていることを伝え、さらに、地域的には東京、大阪や名古屋を中心とした大都市圏、札幌や福岡などに感染者数が地方に比べて多いことを示した。

この間の出来事として、3月2～24日北九州市の学校は休校に追いこまれたこと（全国も同様）、*3月31日：入国制限の対象を73か国・地域に拡大、*4月7日：東京・大阪・福岡など7都府県に緊急事態宣言、*16日：対象区域を全国に拡大、*5月25日：全都道府県で同宣言を解除し、経済的打撃を防ぐために、刺激策として旅行や飲食を奨励した。

*7月22日に go to トラベル開始（交通費・宿泊代の35%補助、地域共通クーポンを使えば、

あと15%補助。計50%減額）。ただし、東京は除外。*8月7日：国内の新規感染者数が1600人を超えた。第3波で北海道の札幌市や大阪市の感染者数が増えたので、11月28日：go to トラベルの対象地から大阪市と札幌市（北海道）を外したことを指摘した。



このような新型コロナは大きな負の経済的影響をもたらしたが、11月2日時点で、倒産件数が全国で673件を数え、その内訳は、法的整理：586件（破産557件・民事再生法28件・特別清算1件）、事業停止：87件となり、業種別では、「飲食店」：102件、「ホテル・旅館」：61件、「アパレル小売店」：45件、「建設・工事業」：43件、「食品卸」：36件であった。都道府県別では、東京都：155件、大阪府：68件、神奈川県：33件、北海道：32件である。また、負債総額は、2,918億3,300万円で、「100億円以上」の大型倒産が株式会社レナウンなどを含めて3件、「50億円から100億円未満」が7件、「10億円から50億円未満」が42件となっている。

大企業も大打撃をこうむった。軒並みこの冬のボーナスカットが告げられ、例として、▼ANA（航空会社）は100%減……冬のボーナス全額カットを含む年収約3割減を提示。家電量販店大手などに社員は出向させられてる。▼JTB（旅行業界）も、100%減で、これは1989年以降で初めて、約1万3000人の社員に対し、冬のボーナスを支給しないことを通知している。被害は国籍、年齢を問わず、三重県では、フィリピン人76人が解雇された。この間に解雇や雇止めにあつた人は7万人超過（厚生労働省）とも言われている。

これらの状況に対して、政府や地方自治体は、1. 国民に対して10万円の特別定額給付金、2. 事業者への持続化給付金：法人には200万円、個人事業者には100万円、3. 住居確保給付金（原則3か月、最長9か月）、4. 無利子の緊急小口資金（最大20

万円)、5. 総合支援資金 (最大月額 20 万円×3 か月)、6. 生活保護 (217 万人 : 2015 年 10 月 1 日現在) (徐々に減ってきたが、今年 4 月の申請は前年度比 24.8%に上昇)、7. 地方自治体では独自に緊急支援をしているところもある。

民間の NPO も支援に走っており、フードバンク北九州ライフアゲインでは、食品配布のフードパントリーを行っている。フードバンク北九州ライフアゲインの力を借りて、北九州市立大学の三宅ゼミでもフードパントリーを企画した。北九州市立大学は入構禁止なので、近くの北方市民センターにて、7 月 10 日と 11 日はトマトと玄米パックを配り、29 人の学生がきた。



三宅ゼミによるフードパントリー

また、11 月 19 日には学生が作った弁当と食品を 17 人に配って、学生に喜ばれている。先行きは見えないが、何とか踏ん張らなくてはならない。共に頑張り、新型コロナ禍が早く終息し、韓国の皆さんと直接会えることを願っているとの最後の挨拶の言葉が述べられ、発表が終了した。

○RCE ドボン区との質疑応答

報告：川島 伸治

各 RCE から活動内容の発表の後、意見交換を行った。

RCE 北九州：教材開発についての経緯をお聞きします。(後藤)

RCE ドボン区：RCE 認定の際、国連大学からアドバイスを受けて作成しました。国連大学が言う ESD の最も大切にしなければならないポイントは体験学習を主にするものでした。小学生を対象に教材開発を行っています。ドボン区は行政がリーダーシップをとっていますが、官民協働で作成しました。

RCE 北九州：具体的な教材の内容を教えてください。(細井)

RCE ドボン区：ESD は環境分野に特化しがちですが、この教材はジェンダーにフォーカスし「女の子とサッカーボール」を題材に取り上げました。

RCE 北九州：コロナの影響があり、自粛期間は学校が休校して勉強が出来にくい状況があって、私の団体では学習支援活動を始めたところです。発表にあった「マウル型放課後学習支援活動」について詳しく教えてください。(服部)

RCE ドボン区：ドボン区は教育革新として「まちの教育共同体」という活動をしています。子どもはまちの共同体が育てるというコンセプトに基づいています。放課後、地域住民が子どもたちの育ちに関わっています。

RCE 北九州：ドボン区が ESD を政策に入れていくきっかけは何でしたか？(後藤)

RCE ドボン区：ソウル市の中で一番うまく取り組んでいるからという理由です。ドボン区長のリーダーシップですね。その思いが住民に伝わっているので活動がうまくいっていると思います。

RCE ドボン区：市民社会の草の根活動が活発です。官と民がガバナンスを構築し、市民活動が行政のリーダーシップを後押しする環境が出来ています。

RCE ドボン区：北九州訪問の際、RCE が先か ESD が先なのか伺ったら、ESD の概念が身体に染みついているからという答えでした。具体的な活動事例を教えてください。

RCE 北九州：「青い地球の会ブルーアース」の活動を紹介します。

ここで“エコ博士ロンリー”登場！

小学生や幼稚園児等子どもが気候変動や地球温暖化について自分事とし、考えて行動できるように導く講座をしています。理由は、いまだ正解がない課題だからです。難しい課題なので「エコ博士ロンリー」というキャラクターを設定して幼児にも楽しく学んでもらう活動をしています。(川島)

RCE 北九州 : RCE 北九州は市民が自発性をもって活動してきたのが特徴です。その一つとして私は映画の上映をしています。北九州市はドキュメンタリーを上映する環境がなく、これまで5年間、環境学習課にご協力いただき活動ができています。今回交流するドボン区はサンムンドンがあるまちと聞いて嬉しくなりました。コロナ感染症拡大が始まり行動が制限されてから自宅で過ごすことが多くなり、「1988 応答せよ」を何十回と観ました。DVD も買っています。おかげで今ではサンムドンは知っている人が住んでいるまちという認識です。ドラマに登場する若者たちと、これまで私が一緒に活動していた学生たちとの姿が重なりました。また、ドラマに登場する4人の学生や親世代、その社会背景が自身と重なりました。その後、「1988 応答せよ」に出演している俳優のドラマを30本以上観ました。韓国のドラマや映画を観ることによって、感動はもとより、たくさんの学びや気づきがありました。脚本家の素晴らしさも知りました。韓国の映像産業が成功している理由も今は理解しています。日本の映画産業を応援している市民としてはうらやましくもあります。「太陽の末裔」のシナリオに、「太陽は万人に降り注ぐ公平な社会であるように」という平和へのメッセージを示してくれていて、脚本家がドラマに託した思いに触れてとても感動しています。今回、事前学習では韓国文化にふれる目的で「82年生まれ、キム・ジョン」を題材に選びました。映画と小説では結末が違いました。何かの記事で作者と映画関係者が未来の女性たちへの希望を託したと知りました。様々調べていたら、2001年にすでに現代社会における女性の生き方を描いた「子猫をよろしく」という映画を作っていたと知り、驚いています。今後も映像作品を通して社会課題を研究していきたいと思っています。次にお会いできるときにはぜひ映画を通した社会課題について話ができれば嬉しいです。ありがとうございました。(服部)

RCE ドボン区 : コロナが収まったら、ぜひドボン区に来てください。一緒にロケ地巡りのサンムンドンツアーをしましょう。

RCE ドボン区 : こういう席を設けてくださって感謝しています。ドボン区は韓国の中でもESDの先進地といわれていますが、まだまだ世界のRCEに学ぶ要素があると思いました。こういったきっかけで皆さんと市民参加を促すようなかたちで進めていきたいと思っています。今後も北九州RCEのご協力を期待します。

○RCE インジェとの質疑応答

報告：川島 伸治

RCE 北九州：事前学習でインジェのアジェンダを表現している「2030 生命の道」を翻訳し、インジェの10年の取組みを学びました。国家主導のまちづくりから民間主導のまちづくりに変革していく取組みに感銘を受けました。「成長」から「発展」へ。発展は中身が充実していくことでインジェのまちづくりの特徴だと思いました。都市が発展していくというより、自然と共存していく発展の仕方が印象的で、持続可能な社会を作る上で重要な考え方だと感じました。冊子の結末で明るい未来を描いている場面を見て、自然と人類が共存することこそが、持続可能な社会を作る方法で、それがSDGsということだと気づかされました。(弥山)

RCE インジェ：おっしゃるように、自然と共存するまちづくりを目指しています。今後、北九州 RCE と情報を共有しながら活動していきたいと思っています。

RCE インジェ：コロナに対する補助金について、財源など詳細を教えてください。

RCE 北九州：国レベル、地方レベルの2つの財源があります。状況はひっ迫してはいますが、特別な予算を組んでコロナを終息させるために取り組んでいます。将来世代には負の遺産となるかもしれませんが、まずは終息を目指したいと考えているようです。(三宅)

RCE 北九州：補助金は日本人だけでなく、在日外国人にも支給されました。(後藤)

RCE 北九州：韓国の感染状況を教えてください。

RCE インジェ：日本と同じく感染者数は増えています。昨日(12/12)は950人でした。都市部で増加しています。クラスター発生というより、同時多発的に増えています。

RCE 北九州：PCR検査は安くて簡単にできますか。

RCE インジェ：インジェは症状があれば保健所で無料検査が出来ます。

RCE 北九州：昨年ツアーで訪問し、大変勉強になりました。オンライン交流が出来てうれしく思っています。これからも交流を願っています。(稲田)

RCE インジェ：ESD カフェやSDGs 図書館等、具体的にイメージできました。SDGs 図書館について詳しく教えてください。

RCE 北九州：会員に協力をお願いして本を推薦してもらい学生が本にSDGsのタグ付けをしてSDGsの観点から感想文を書き、広報誌に載せています。(事務局)

RCE インジェ：協議会の会員数を教えてください。

RCE 北九州 : 団体数 83、個人会員 10 数名です。

RCE インジェ : インジェでは高校生が放課後に多文化家庭の子どもたちの学習を支援する活動をしています。今はコロナ禍で親が放課後、子どもの世話ができない状況があります。北九州にはそのような活動がありますか。

RCE 北九州 : コロナ禍で子どもたちは一か月間の自粛期間中に学校へ行けませんでした。国は抜けた学習時間を補完する動きがないので、なにか応援したいと思い、北九州市の助成金を申請して資金を作り学習支援活動を始めました。今はブルーアースと地球交遊クラブが協力して活動しており、教師を退職した夫がプロデュースしています。社会福祉協議会などに呼びかけて必要な子どもに情報が届くよう様々な団体と協働して進めています。(服部)

RCE インジェ : 最後にインジェ RCE から提案をしたいと思います。今の活動はインジェ郡に限定していますが、今後は活動の幅を広げるために同じような活動をする日本の団体とつながり、情報共有していきたいと思っています。

11. 提案

INJE COUNTY INJE COUNTY INJE COUNTY INJE COUNTY INJE COUNTY

インジェ-北九州交流増進のための提案

1. 韓日青少年活動交流

(1) インジェの青少年活動(例)

- 青少年環境実践サークル
- 農業及び土産物サークル
- メディア等映像制作サークル
- ユネスコスクールの太陽な活動サークル
- 地域社会低所得層ボランティアサークル

2. 方法

サークル別に月別又は四半期別のリモート会議を通じた活動共有

RCE 北九州 : 北九州にはたくさんの団体があります。韓国との交流が出来ないか協議会と話し合っていきたいと思います。(三宅)

RCE インジェ : もう少し深く交流したいと感じました。互いの活動を知り、情報交換し強いきずなを作っていきたいと思っています。

感想

原 優衣	北九州市立大学
弥山 葵	北九州市立大学
廣瀬 美海	日本赤十字九州国際看護大学
三宅 博之	調査研究・国際プロジェクト
服部 祐充子	調査研究・国際プロジェクト
川島 伸治	調査研究・国際プロジェクト
後藤 加奈子	調査研究・国際プロジェクト
細井 陽子	調査研究・国際プロジェクト
岩谷 かおり	北九州 ESD 協議会事務局
稲田 佳代子	北九州市環境学習課
宋 珉鎬	グローバルアリーナ/コーディネーター

アン・ウンミ	RCE ドボン区 持続可能発展委員会委員 世界市民教育 (GCED) 学習サークル会長
キム・ウンミ	RCE ドボン区 道峰協治委員
キム・チャンフム	RCE インジェ 事務局長

スタディツアー 感想

原 優衣

今回の調査研究プロジェクト韓国スタディーツアーオンラインを通して、とても良い学びを受けました。実際に企画から参加させていただくことで、今まで知らなかったESD協議会の一プロジェクトである調査研究プロジェクトの活動の概要、韓国 RCE について、ESD、SDGs についての認識など多くのことが学びました。企画段階で北九州 ESD 協議会のコロナ禍での活動、大学生のコロナ禍での現状についての発表を受け持ち、北九州がコロナの中でオンラインを中心に多くの講義の活動、最近では対面形式の勉強会など多くの活動が行われていたことがわかりました。大学生のコロナ禍での現状を調べていく中で、調べなければわからなかった大学生が苦勞している現状や留学生や留学を希望している大学生が留学するために苦勞している現状、オンライン留学として留学を計画している大学の問題点など、コロナの影響で大学生に起こっている問題を学ぶことができました。

本番では実際に韓国 RCE との交流を通して多くの学びがありました。海外の方との交流は今まで中国の方としかなかったのも、韓国の方との交流をすることで価値観や考え方の違いがあることを感じました。また、韓国の RCE の発表ではまずビデオを通してその場所の雰囲気を感じることができたり、発表の中では韓国 RCE が今まで行っている活動やコロナ禍での活動、日本と韓国のコロナの影響の違いや対応方法の違いなど多くの気づきがありました。

自分の発表では、初日では自分の不慣れのせいであまりうまく話せなく結構な反省点として挙げられます。改善点として、印刷した上で話しやすく書き換えをするなどの対処をするべきだと考えました。2日目は前日より話がうまくできましたが前日よりうまくいけただけであり満足できるものではありませんでした。自分が発表自体あまり得意な方ではないため、もっと練習を重ねておくべきだと反省します。会の内容自体では、韓国と日本の話を通してお互いの良さが分かったのではないかと考えます。さらに実際に韓国の RCE に行ってみたいという願望も生まれました。また、韓国だけでなく他の国でも同じような活動をしている国、地域も多くあると考えるのでそこの交流もできれば良いと考えました。今年も来年もコロナが良くなっているという保証はないので、オンラインでの交流を増やしていく必要もあると考えます。また、会全体としての反省として、初動の遅さや企画の煮詰めかた、リハーサルなどを念入りにするべきだと考えました。

スタディーツアー を終えて

弥山 葵

今回のスタディーツアーが、私にとっては初めての調査研究国際プロジェクトとしての取り組みでした。北九州市立大学地域創生学群に入学して約3年間、北九州ESD協議会のサブコーディネーターとして実習をさせていただきましたが、間違いなく最も記憶に残る取り組みだったと実感しております。スタディーツアー本番だけでなく、準備及び事前学習の段階から、大きな学びを得る機会になりました。

北九州市の紹介動画撮影に行った際には、北九州市のあらゆる魅力的な場所を訪れたり、体験をすることができ、今までよりもっと北九州の街に興味関心が湧きましたし、事前学習の準備ではRCEインジェによる漫画「生命の道」を訳させていただいたことで、ESD、SDGsの根元について見直すことができました。参加者としてだけでなく、企画の段階から一緒に活動させて頂いたことで、ツアー及びESDに関する活動の本質を実感できたように思います。

そしてスタディーツアー当日では、実際に韓国の各RCEの方々とのやり取りを通して、韓国での取り組みのみならず北九州市の魅力や課題についても改めてよく考える機会になりました。このスタディーツアーに参加するまでは、私が所属していた「ESDプロモート実習」という名の通り北九州市でESD（持続可能な開発のための教育）を推進するために「いかに市民を巻き込めるか」といったことを常に考えながら活動していました。しかし、このスタディーツアー全般を通して、自分が今まで持っていたそのスタンスは大きく変化したのではないかと感じます。ツアー後は、市民をどう巻き込むかではなく、いち市民としてどんなまちを作りたいか、という考えを地域活動の根源に置きたいと思うようになったからです。

また、漫画「生命の道」でも「自分たちの村は自分たちの手で作る」という言葉が何度も使用されていたり、その様子が描かれていましたが、これを実際に北九州での活動や地元の課題点と置き換えたらどんな発展計画が立てられるだろう、とワクワクしながら読んでいました。この漫画に出てくる「自分たちの手で」という考え方は当たり前のようで多くの人が忘れてしまっている考え方だと思います。そして寧ろ、まちづくりは誰か（主に行政）がやるものだ、という考えを持っている人の方が多いのではないかと感じます。

だからこそ、発展が滞っているまちでは「何かを良くしないといけない」ということを理解しつつもそれが具体的には何なのかは理解できていない住民がほとんどなので

はないでしょうか。

私もきっと、ツアーに参加する前はそちら側だった気がします。どうしても、まちのことを自分ごとに置き換えられていませんでした。しかし今回のツアーで北九州市の魅力に触れ、北九州市で様々なジャンルの課題解決に尽力されている調査研究国際プロジェクトの皆さんと関わり、韓国の RCE の活動を学ぶ中で、私の住むまちは私が一番よく知っていたいし一番住みやすいまちにしていきたいと思うようになりました。

この経験は、これから社会に出てどこかの地域の構成員となる私にとって大きな経験だったし、私と同じような状況もしくはもっと若い年代の人たちにもぜひ受け継いでいきたいと思っています。

スタディツアー 感想

廣瀬 美海

私は今回スタディツアーに参加して、ESD（持続可能な開発のための教育）と、目的は同じであるのに、環境や文化が違えば、例え同じ国でもゴールまでの過程は様々だということ学びました。

地域に根差した教育方法が非常に印象的でした。また、コロナで不十分な活動範囲にもかかわらず、なんとか地域でできることをできる形で取り組む姿勢、またスタディツアーのように zoom での開催というような工夫がなされていること、非常に心に残っています。

そしてもう1つ、言葉が分からなくてもコミュニケーションが取れることに感動しました。同時に、コミュニケーションをもしもとることができていたら、と参加後ずっと考えていました。直接ニュアンスごと聞き取れてこそ伝わってくることもあるのではないかと感じました。もっと理解出来たかもしれない、もっとたくさんの発見があったかもしれないと思うと、非常にもどかしいです。

来年参加する頃にはパワーアップして帰ってこられるように、ESD と韓国についての勉強に精進していきたいと思います。

初めてのオンライン交流、「応答せよ 2020Korea！」

三宅 博之

韓国ドラマ「恋のスケッチ 応答せよ！1988」はソウル特別市ドボン（道峰）区を舞台にしたドラマということで、10月ごろにビデオレンタルショップのゲオから借りて視聴した。しかし、普段からの寝不足のせいか、1巻、2巻を見ている間にも眠くなり、いつのまにか眠ってしまっていた。言われるほどに引き込まれないと思いつつ、続巻を借りるのをやめてしまった。それが間違いだったようだ！アンニョンの会の女性陣から、「少なくとも第3巻か第5巻は見てくださいよ、先生。そこから面白くなるのですから」「あれは第3巻から見ても大丈夫ですよ」と言われた。「ちょっと待った。1、2巻もレンタル代を払っているでしょう？だったらその分、面白い内容のものを作ってよ」と言いたくなかった。彼女たちにそれを言っても始まらないのは分かっているが。とにかく、彼女たちを信じてあらためて見ることにしよう。

韓国ドラマは、時空を超えての舞台設定が好きである。私自身が初めて見た時空を超えた内容を持つドラマがソン・ユリ、ソ・ジソプ主演の「千年の愛」である。百済滅亡に際し、その王女が千年という時空を超えて現在にやってきて、現在の青年と出会い、恋に陥るといったものである。その青年の前世は百済の王女とも関係しているといった設定である。千年を超えての愛が育まれるという壮大な、非現実的な設定であるが、日常の中でストレスを溜めている現代人には憧れの的になろう。

ともあれ、ドボン（道峰）区はソウル特別市内の北部に位置している住宅地を中心とした地域である。600m程度の山々に囲まれ、自然にも恵まれている。私たちが観光で行くソウルの東大門市場地区、南大門地区や明洞地区とは異なる。外国人はほとんど訪れることはない。私が住んでいる小倉南区も住宅地であり、山が多くあるので、ドボン区との共通点はたくさんある。よって、ドボン区から学べることはたくさんあろう。小倉南区も人口25万人ほどなので、ドボン区の人口とあまり変わらない。今回は、北九州市内やその付近にESDを愛するどのような人々がいるかを知ってもらった。ただ、ドボン区では行政組織が事務局を兼ねているので、気軽に訪れることが難しい面は否めない。

その点、北九州ESD協議会は、独立した事務組織や施設を持っているので、アポを取っておけば、気軽に訪れることができる。事務局のスタッフには外国や日本国内からの来訪者に対しては今まで通り、丁寧にお迎えや案内をしていただきたい。

今回のようにオンラインを通じて情報交換をすることの重要性が改めて理解できた。今後、1年1回の現場ツアーにこだわることなく、オンラインを通じてテーマごとに交

流ができればと思う。ドボン区の ESD に関わる人たちは今回オンラインに登場していた人々以上に存在するだろう。今回、出席できなかった人々とも交流する必要がある。インジェ郡は毎年行っているのによく知っているが、今後はインジェの物産展を開きながら、オンラインで結び、即売の手伝いをしてもらいたいとも考えている。よろしく。

オンライン交流感想

服部 祐充子

2020 年は 2 月から北九州市でもコロナウイルスの影響でほとんどのイベントやセミナーが続々と中止や来年へ延期になりました。その中で、ひよんなことに 5 月の中旬から韓国ドラマを見るようになりました。

ドキュメンタリー映画の上映活動をしてきた関係で韓国の作品にも触れていましたが、見始めると私の中の映像作品への親和性の強さもあってか、怒涛のようにドラマや映画を観るようになり、東アジアの近代史、現代史を題材に臆することなく取り組む制作者たちや俳優たちの勇気と力量に圧倒されました。

実際のスタディツアーができない環境ならと企画することになったオンライン交流会に臨みましたが、予想以上の楽しい二日間になりました。

ドボン区のみなさんからは、私が韓国ドラマを見るきっかけになった「応答せよ！1988」の舞台のサンムンドンで会いましょう！とっていただき、インジェのみなさんとの交流では、案内していただいたときの 38 度線の風景と若い兵士の姿と重なる「太陽の末裔」を思い出しました。この半年で 40 作のドラマと 5 本の映画から学んだ韓国の暮らしや空気感は初雪への想い、ラーメンひとつ食べるときの感情も併せて楽しみましたが、ますます韓国に行きたい気持ちが膨らみます。「太陽の末裔」は 20 回完走！で、OST が良すぎて、K-POP で EXO を聞くようにもなりました。知らずに聞いていた EXO のチェンの曲、何百回と聞いたはずです。

このような会を持ちながらお目にかかれる時を楽しみに、ドラマに映画に韓国語に、そして ESD にいそしみたいと思います。

エコ博士ロンリー参上！

川島 伸治

「アンニョンハセヨ！」どこか聞き覚えのある声とともに、久しぶりにお会いする顔が zoom のスクリーン上に映し出される。お互いに久しぶりのあいさつを交わし、共に元気であることを確認し合う。今年はずっと違う状況となっていた…

昨年までは、握手をしたり肩を抱き合ったりして互いに友情を確かめ合うことができたのだが、新型コロナウイルスの猛威に逆らうことができないのが現状である。2020 年の韓国スタディツアーはリモート開催となり、宗像市にあるグローバルアリーナとソウル市の RCE ドボン区、インジェ郡の RCE インジェとを結んで、コロナ禍での ESD 活動状況などについて交流を行った。

私は、ドボン区が RCE に認定される前の 2019 年 10 月に訪れたことがある。北九大の三宅先生のお供として後藤さんと 3 人で“ESD 国際フォーラム”に出席した。ドボン区の印象としては、2013 年に訪問した同じソウル市内のノウォン区とは異なり、開発が進む新都市部と、古い町並みが残る旧市街地がパッチワークのように広がっている様子をホテルの窓から眺めたのを覚えている。

今回のスタディツアー交流会では、エコ博士ロンリー用の白衣を用意しておいた。これまでに RCE インジェでは、小学校や高校でエコ博士ロンリーによる出前授業？を披露していたので、インジェとの交流に準備だけはと思っていた。ところが RCE ドボン区との交流の中でどのような ESD 活動をしているのか教えてほしいとの問いかけがあり、グローバルアリーナの会場の威圧的な後押しもあって、渋々、エコ博士ロンリーの登場となったのである。とは言うものの、RCE ドボン区からの参加者の心を驚掴みに出来たおかげで、ドボン区でもロンリーの出前講座ができそうな感じである。1 日も早く実現できることを切に希望するばかりである。

2021 年のスタディツアーも今年同様にリモートとなるかもしれない。それでも我々 RCE は、ESD という共通の理念・目標を持った仲間として、また共通の理解者として交流を重ね、さらにお互いの理解を深めていきたいと思っている。企業の利益や行政の施策に囚われない、民間レベルでの心の交流を目指していきたいと願っている。そのためにも・・・コロナウイルス、早期退散せよ!!!!

インジェ、そして北九州の2030年のビジョン

後藤 加奈子

2017年にRCEインジェからいただいた「2030 生命の道/DMZ 平和生命共同組合編」を事前学習でテキストに使うことになりました。いつか訳して読んでみようと寝かしておいた3年物の260ページの冊子です。当然オール韓国語ですが、漫画なのですぐできるだろうと甘い考えで学生さんと分担して挑みました。話し言葉なので難しく、もともと韓国語は挨拶程度の私、すぐに後悔することになりました。(内容については本報告書に記載しています。) インジェには2013年から毎年ツアーで訪問し、ESDの実践事例を見てきましたが、理論について深く知る機会はありませんでした。今回訳した本の結末に2030年の目指す姿が描かれてありました。美しい水が流れ、人々が笑い合い、緑あふれるマウル(コミュニティ)の絵でした。スタディツアーで行くたびに小さな実験場のような農園でブルーベリー摘みやおいしいハーブティをいただいたりしていましたが、まさか、あの農園がインジェの2030年の目指す姿とは! そういえば、この7~8年で少しずつ拡大しており、新しい試みが増えていることを思い出しました。

「持続可能な発展(韓国では開発と訳さず、発展と言います。)」といえば、イメージするのは都市開発や次世代エネルギー、いわばアトムの世界ですが、インジェは農業における構造改革を政策提言と実践で進めており、未来の姿はジブリの世界。

食糧、もっと言えば植物や動物が育たない土地に人間が生き続けられるはずがない、ということでしょう。納得です。

さて、北九州ESDのビジョンはインジェのように絵で表すとどうなのだろうか。

このオンライン交流会が行われた2020年12月、北九州ESDは2025年までの5年間にわたる次期アクションプラン策定の最終段階に差し掛かっています。私たちが今まで学習しながら進めてきたESDの実践を振り返り、心が少々苦しくなりました。SDGsが世に出てきて以来、北九州ESDはすっかり様変わりし、SDGsカラーに染まっていました。これまでコツコツ活動してきた市民の姿が見えなくなっているのです。

SDGs達成はESDが目指す世界と同じです。「北九州市SDGs未来都市計画」では、「一人ひとりが行動し、みんなが輝く社会を目指す」とあります。また、「一人ひとりの日常のあらゆる活動がSDGsの達成につながっていることを市民が理解し市民力を高める」とも言っています。教育なしにはこの目標の達成はありません。これまでも、そしてこれからもESDは北九州市の目指すビジョンに十分貢献できると信じています。

私はESDの概念を大切に、学び活動していきたいと思っています。

オンラインの妙と対面の妙

細井 陽子

Think Globally, Act Locally! と申しますが、小さな北九州から全世界をよくする諸団体の集まりが北九州 ESD 協議会です。スタディツアーを続けてきたお蔭で二国間の交流がずいぶん本格的になっている事を今回実感できました。堂々たる世界の地域拠点の対話。

思えば今回のスタディツアーは、実施自体が賛否両論でしたネ！長年 ESD 協議会の国際部門を受け持ってきた調査研究国際プロジェクトとしては、指定管理を受けている形ですから、当然のごとく進めて行きますし、事務局・環境学習課は少々及び腰、当初は RCE という言葉をチラシに入れることも無くてよいのでは…？というご意見もあったようです。

単なる活動メンバー同士の国際交流であれば何の「役目」もないわけですが、ミッションを感じて ESD 協議会にコミットメントを持っている以上は、多忙を極めるメンバーが自らの独自の資源を投げ出すように提供して、その結果、多彩な企画が出来上がりました。

私個人として貢献できたことは RCE インジェから頂いたマンガ本が地下のまなびと ESD ステーションにあるのを思い出したことです。事前学習に登場したマンガ本は、弥山さんに新しい学びを、後藤さんに再びの出会いをもたらしました。このマンガ本が凄かったのは RCE の紹介というよりは、RCE のアクションプランがまとめられている本だったことです。お蔭で、事前学習会では北九州 ESD 協議会で作るアクションプランに思いを馳せながら学ぶことができました。明確な未来の目指す姿と、それを実現するための計画。アクションプランとは本来そういう物だという、当たり前のことを推進していける勇気をもらえました。

本番のインジェとの交流は、食と農業でサステイナブルを目指すインジェで寒い冬の日に集まってくれた懐かしい顔が見えただけで、ほっこりした気持ちになりました。北朝鮮に近い国境の間近で世界で唯一の分断国家を生きる人たちと話せることの幸運を感じました。

いつもならラクラク海を渡って行ける最も近い外国への旅行に行けない新型コロナ時代。単なる韓国ファンの交流であれば行って焼肉！マッコリ！チキン！メッチュ！とともに楽しめないのだから、次の機会を待ってもいいようなものです。しかし、それだけの娯楽にどんな喜びがあるでしょうか。手前の分野の知識を披歴しますと、うま味

の相乗効果というのがございます。いわゆる出汁をおいしくする工夫として、かつおだしに昆布だしを混ぜると二つ足した以上のおいしさになると。大好きな活動を世のため人のためのボランティアで行うって、それに似ていないでしょうか。いくら世界を変えるためとはいえ無償労働前提じゃ軽んじられた気分…好きなことじゃないと味気ない…。どちらが欠けても持続可能ではないのでしょうか。好きなテーマで人の世を良くしていく私達 ESD 協議会です！

グローバルアリーナは企業の CSR の先駆け的な存在です。有り難き場に感謝します。

スタディツアー 感想

岩谷 かおり

今回、「韓国 ESD スタディツアー2020」にお手伝いとして関わらせていただきました。

調査研究のメンバーの皆さんからたくさん学ばせていただき、このスタディツアーを経て自分自身が成長したと思います。

事前学習から調査研究のメンバー各自が担当に分かれて勉強会を 3 回も開いてもらえたのはとても感謝しています。どの回も下準備から一生懸命していただき、みんなの学びの場ができました。

本の回では翻訳をして説明している中で、「未来はやって来るのではない、選択し創造していくのだ」という言葉はとても印象に残りました。それから、グローバルアリーナで行った韓国 ESD スタディツアーでは RCE インジェ・ドボン区の方達とオンラインで繋がりました。とても新鮮で交流会も楽しく行うことができました。

最後に調査研究・国際プロジェクトの皆さんの笑顔を見ることができたのでわたし自身参加して良かったと思いました。三宅リーダーありがとうございました。

韓国スタディツアーに参加して

稲田 佳代子

今年は、新型コロナウイルス（COVID-19）によって、世界中の人も社会も翻弄された一年であった。もちろん、北九州 ESD 協議会においてもさまざまなイベントや事業が余儀なく中止され、その中で持続可能な社会づくりのために私たちは何をすべきかを考える必要があった。移動の制限を強いられているなかで、今まで北九州 ESD 協議会が 2007 年から行っている韓国スタディツアーの実施はかなり困難だと考えていた。

そのような状況下において、調査研究国際プロジェクトの皆さんがオンラインでスタディツアー実施を計画したことは本当に素晴らしいことだと思う。また、そのための事前準備にあたっていただいた発表者の皆さん及びツアー当日の発表者の皆さんに感謝の気持ちを伝えたい。

事前学習において、第 1 回の素材である「82 年生まれ、キム・ジヨン」はジェンダー問題を取り上げたもので、大変共感できた。日本でも韓国でも家庭のなかで「女性」のとらえ方が大変似ており、社会における女性のあり方を改めて考える機会となった。

また、2 回目の RCE インジェの発行した漫画「地球が痛いです」については、絵と事柄で「持続可能な社会づくり」に必要なことを子どもでも考えるようになっていることに感心した。ぜひともハングル語を勉強して全文を読めるようになりたいと思っている（いつになるかはわからないが）。

最後に、3 回目の発表で、コロナ禍においても海外と積極的にオンラインで交流を図り、情報発信を続けていただいていることを改めて説明いただき、その交流に学生と共に参加し、社会の担い手を育てることに ESD の重要性を感じた。

ツアー当日は、ドボン区もインジェにおいても、お互いにオンライン越しにお顔を見ることができ、初めての方もいらっしゃったが、親しみを感じることができた。これは、今までに ESD 協議会で育んできた交流の成果により、距離や国境を越えて近さを感じることができたのであろう。

最後に残念であったことが、コロナ禍においてもオンラインで参加できるツアーを企画したにも関わらず、日本からのオンライン参加が出来なかったことである。オンラインであれば参加したかったのにといい方もいらっしゃったと思われる。せつかくの企画であったため、もっと多くの方に参加していただきたかった。今後は柔軟な対応も求めたい。

新たな挑戦

宋珉鎬 (ソン ミンホ)

困難な物事や新たな記録などに立ち向かうこと。2020 年度はコロナ禍で日常生活から社会活動まで大きな変化が生じた。毎年、開催されてきた韓国スタディツアーにもその影響はあった。今の状況を考慮すると渡航することはできないから中止すべきか？それとも他の方法を模索して進めていくべきか？など多方面から考えていたところだった。

そこで、今の情勢で、大学の授業やグローバルアリーナで開催される大会などは Web を活用することで授業をしたり、大会を開催したりする。本企画は本来であれば、現地に出向いて現地の人々と交流をすることで学んだり、感じたりするのが理想であるが、今回はやむを得ずにウェビナー (Webinar : Web Seminar) で開催することにした。

企画の準備段階から今の報告書の作成までの流れを振り返ると、セミナーの相手は、その日程は、どのような内容で、どこで、参加者は？など、実施に向けての課題や不安な気持ちでいっぱいだった。その中、一番調整に苦しんだのはグローバルアリーナでの宿泊を伴うことだった。スタディツアーをおこなうのは参加者同士が同じ食事・日程、現地の人々との交流などを通して仲間意識を高めることで、お互いの存在を理解し合う良い機会になるからである。今回はその現地をグローバルアリーナにして、そこで一泊二日の日程で開催することで本来の目的を成し遂げようとした。いつもツアーへ参加を募る参加者は多種多様であり、今回も学生から一般の社会人までが手をあげた。しかし、お互いの立場や置かれている状況が異なることで、最後まで調整が厳しかった。

交流の当日、ドボン区との交流の時は、会場の設定、カメラの位置、パソコンの使い方など、少しギクシャクするような感じだったが、二日目の RCE インジェの時は、パソコンの操作、休憩や発表の時、お互いの役割や参加者同士の思いやりなどが見えたので、ウェビナーの形ではあっても開催できてよかったと思う瞬間だった。持続性を持ちながら活動の内容を外に向けて発信するのはとても大事なことであるが、それと同等に内側がしっかりフォーメーションを組んで活動に取り組むことは我々が追求していく ESD の基本的な主旨であると思われる。

コロナ禍で両地域の人々は会えない困難な状況においても、新たな方法で活動の持続性を保とうとする仲間がいるからこそ、10 年以上続いている北九州 ESD 協議会の韓国スタディツアーの本来の在り方であり、一人が 100 歩を歩むより 100 人が一歩を歩む持続可能な社会を構築していくあり方ではないでしょうか。

RCEドボン区 アン・ウンミ

(道峰区持続可能発展委員会委員、世界市民教育学習サークル会長)

2019年に開催された「ドボンESD国際フォーラム」に登壇された三宅先生とオンラインで直接お会いできてとても光栄でした。私自身、これまでオンラインでの海外交流を行ったことはありませんでしたが、実際に画面を通した市民間交流が出来て大変良かったと感じています。

北九州市は、世界的に有名な環境都市で市民主導型のESD活動が活発であるとお聞きしています。今後も交流を継続しながら御一緒に持続可能な社会を構築していきたいと思っています。

RCEドボン区 キム・ウンミ

(道峰協治委員)

たとえ言語が異なっても考えていることは一つだと思います。持続可能な社会を作っていく上で、地球的視野をもって地域で活動するのは全世界共通です。オンラインを通して北九州ESDの市民活動家の皆さんとお会いしましたが、とても初めてではないような気がしています。ぜひ交流を継続していきたいと思います。韓国ドラマ「応答せよ1988」のように、暖かさがあるドボン区にぜひ遊びに来てくださいね！

RCEインジェ キム・チャンフム

(RCEインジェ事務局長)

「コロナ 19」拡大の状況下におきまして、持続可能な発展のために非対面方式での交流を企画運営していただき大変感謝しています。

今回の交流を通して、ESDに対する北九州 RCE の方々の熱い思いに感銘を受けました。

特に、チョン・ソンホン理事長が書いた「インジェ 2030 生命の道」を勉強し、実践のために努力する大学生の姿を見て、私たちは生命にとって有益な社会のために何が出来ているか再考する機会を得ました。

インジェへの関心と両都市間の交流のために、これまでご尽力いただいた花崎正子氏、川島伸治氏、後藤加奈子氏ほか、北九州 RCE の皆様に感謝申し上げます。

「コロナ 19」が早く終息し、再び往来できる日を楽しみにしています。

お礼のことば

RCE Dobong 区の皆さま、RCE Inje の皆さま、この度はコロナ禍の中でありながら、「交流と学び」のチャンスを与えて下さりましてありがとうございました。

2007 年に始まった本スタディ・ツアーはほぼ毎年実施され、これまで多くの会員・市民が皆さまとの交流を深め、様々なことを学ばせていただきました。今年は新型コロナのパンデミックを受け、御地の訪問は断念せざるを得ず大変残念に思っておりましたところ、プロジェクトメンバーから Online での交流の提案があり、直ちに走り出しました。Online での交流は初めての経験であり、ましてや Dobong 区の方々との正式な交流は初めてで不安でしたが、交流会が始まると緊張感よりも旧知の友人に会ったような心の安らぎを覚えました。

Inje には数回訪問していましたので、Inje の方々に再会し、また Inje の自然の動画に触れたときは、心のふるさとに帰ったような温かな気持ちで満たされました。このような「心の温もり」はどこからくるのでしょうか。これぞ ESD 活動のなせる業なののでしょうか。

この度もまた、皆さまとの交流で学ばせていただきました。Dobong 区のご活動は自治体主導型ということでしたが、モニタリングや教材開発等、システムティックに ESD を実践されていることを知り感銘を受けました。とくに、2030 年には SDGs を達成すべく、世界市民意識を高める教育と ESD を自転車の両輪として、生涯学習を通して実践されていることに心を強く打たれました。Inje は「自然と共存する」「命を利する」という概念を活動で実態化されていることに魂を揺さぶられています。私たちもそのような思想を深め、活動で実践していかなければならないと思っています。先日、東京大学と韓国 Chey 高等研究所との共催で実施された「東京フォーラム」で、世界のリーダーたちが「国際公共財の管理責任」についての情報を世界に発信しました。私たち市民間の草の根交流が目指しているものも通底すると思っています。

韓国は高齢者を敬うという文化をお持ちです。お蔭さまで高齢の私でさえこのツアーに参加させていただき、若いメンバーたちも皆さまに学び、ここで皆さんにお礼を申し上げるチャンスを私に作ってくれました。私たちは皆さまに教わるばかりです。

この度は本当にありがとうございました。またお会いしたいと思っています。北九州にもぜひお越しただけたらとお待ちいたしております。

最後になりましたが、福岡県環境教育学会の皆さま、アンニョンの会の皆さま、今度はご参加くださりましてありがとうございました。そして、このような交流が可能となりましたのも、2008 年のスタディ・ツアーから、ずっと、サポート下さいましたソンさんの存在を忘れてはなりません。ソンさんありがとうございました。

花崎 正子

参加者アンケート

■アンケート結果

「2020 韓国ドボン区及びインジェ郡への ESD (online) ツアーに関するアンケート」

(花崎 正子、細井 陽子、三宅 博之)

12月12日・13日に on-line での韓国 ESD ツアーを行って、2か月後に振り返りを行う意味で、下記のアンケートに答えてもらった。結果は以下の通りである。(回答者数は10人中8人)

{回答は、指示に従ってお願いします。指示がない場合は、各問ごとに「1つ」を選んで()の中に○印を入れるか番号・カタカナ文字に○印をつけて下さい。}

1-1. 韓国に興味がありましたか？

- ① 非常に興味がある (7人) ② どちらかといえばある (1人)
③ どちらかといえばない () ④ まったくない ()

1-2. 「非常にある」「どちらかといえばある」との回答者に対して、韓国の何に興味がありますか？ (複数選択可)

- ① 歴史 (7人) ② 文化 (6人) ③ 経済 (4人) ④ 政治 (6人) ⑤ 地政 (2人)
⑥ 宗教 (1人) ⑦ 平和 (4人) ⑧ 生活 (ア.食{7人} イ.衣 {4人} ウ.住 {3人}
エ その他) ⑨ 教育 (6人) ⑩ 映画 (4人) ⑪ ジェンダー他差別問題 (2人)
⑫ ESD 活動 (6人)
⑬ その他 *有機農業の食品を使った無償給食

2-1. 今までに韓国に行ったことはありますか？ (複数選択可)

- ① ある (ア ドボン区 (3人) イ インジェ郡 (6人) ウ トンヨン (5人) エ ウルチュ郡 (3人)
オ その他 (5人 : ソウル、釜山、ピョンテク、済州、光州、大邱、ソクチョなど)
② ない (1人)

2-2. 「ある」との回答者に対して、その中で最も印象に残っていることは何ですか？

- * 平和に対する取り組み
- * ESD 活動者との交流
- * インジェ : チョン・ソンホン前理事長の地域創りの思想・構想・具体的展開
- * 国の方針により大きく政策が変わりよいことは広く早く浸透すること
- * 食文化

* 人々の笑顔と食事内容が非常に健康的

* 2012 年麗水国際博覧会

3. 今年度はオンライン韓国ツアーのため、事前学習に力点を置き、韓国文化の代表である小説や映画、さらにそれを通しての社会問題、漫画を使つての自然との共生や平和の問題、さらには ESD の概念と今日のアジアの ESD の動きを学習してきました。それらの事前学習は、グローバル・アリーナで行った RCE ドボン区やインジェへの韓国 online ESD ツアーに役立ちましたか？

- ① 非常に役立った (5 人) ② まあ役立った (3 人)
③ さほどでもなかった () ④ 全く役立たなかった

4-1. 今回のツアー以外で、北九州 ESD 協議会主催の過去の韓国ツアーに参加したことはありますか？

- ① ある (6 人) ② ない (2 人)

4-2. 今までの現実のツアーと比べて、Online でツアーを行つてよかったところは何ですか？ {優先順位順に最大3つまで。必ずしも3つ書く必要はありません}

1 位優先項目

- * コロナ禍でも開催できたこと。
- * 限られた時間で交流のため内容が凝縮しており、互いに伝えたいことがピンポイントで伝わったと思う。
- * これまでのリーダー及び会員の韓国 RCE との関係構築により実現。ESD 活動という同じ目標を持つ人たちの相互信頼によりこのような会が容易に実現できたことを実証できたこと。
- * 泊りなので体が疲れなくてよかった。
- * 旅行日程や時間を気にする必要がない。
- * 相手方の参加者の表情がよく分かった。

2 位優先項目

- * 事前学習があったこと。
- * 事前学習ができたこと。プロジェクト内の若い会員も含めて会員が相互理解を深める機会となったこと。
- * 韓国側の方々が良く準備してくださり、そのためか参加意欲が高く臨んでくださった。
- * 気候や天気を気にする必要がない。

3 位優先項目

- * 企画段階から学生が進んで関わっていた。
- * 協議会の組織運営の在り方について、協議会とプロジェクトメンバーが共有を図る必要性が明らかになったこと。
- * お金がかかりすぎない。

4-3. 逆に、よくなかったところは何ですか？

1位項目

- * オンラインなので、グローバル・アリーナに行かずに参加できればよかった。
- * プログラム：参加者の紹介ができなかったのが残念だった。
- * 費用が掛からないので関心ある市民が参加しやすかったはずであるが、一般市民への広報が徹底できなかったこと。
- * 食物を予算で用意できず、個人の善意に依存していた。当然、必要な茶菓類は支出できるよう北九州の規定を変更すべきである。また、外郭団体なのに、北九州市の一部でしか適用されていないルールを使っており、他の助成金と全く違う運用で過剰適応。
- * おいしい食事を食べるができない。
- * 韓国の生の雰囲気を感じられなかった。

2位項目

- * 福岡県環境教育学会などの方の話も伺いたかった。
- * 会場設営：スピーカーが必要だった。画面が一つしかなかったので、北九州側の様子を見ていただけなかった。
- * 今回に限らないが、今回は特に online であるがゆえに事務局との関係について、会員からしばしば問題提起があったが、すぐに会計への話し合いが持てなかったこと。
- * 現地の方のぬくもりを直接感じられない（人間味がない）。

3位項目

- * 事務局：協議会会員以外の参加者に入会を勧める機会だったが、事務局から入会のアナウンスがなかった。
- * 行きたい場所に行けない。

4-4. 今回のツアーを総合評価して10点満点で何点でしょうか？ () 点

10点：1人 8点：4人 7点：2人 6点：1人

5. 今後の online 交流に役立てるために、今回の online ツアーの改善点があれば教えてください。{優先順位順に最大3つまで。必ずしも3つ書く必要はありません}

1 位優先項目

- * online なので、自宅からも参加できること。
- * プログラム：メンバーと事務局で会議をしながら、役割分担など入念に計画をたてる。
- * 年度当初に企画を立案し、広報を周知する。
- * 本番前にリハーサルを行うことの重要性。
- * 事前に通信機器の調整をしたほうが良い。
- * 一般参加者の動員、勧誘、周知の方法と時期。
- * もっと広く参加者を集めるために、参加条件を緩くする。
- * 事前に online での音声、映像の確認を行う。

2 位優先項目

- * 会場設営：スピーカー、複数の PC 等必要な機器の準備。
- * 本プロジェクトでの対象地だけでなく、国内外の RCE 活動について学んでおく。
- * チラシの校正。
- * コーディネータや通訳者の複数確保。
- * あいさつ文、発表の日本語原稿を事前に準備し通訳に渡す。

3 位優先項目

- * 事務局：パンフなど入会案内の準備をしておく。会員獲得の機会を無駄にしない。
- * 運営上の問題点について、協議会事務局と話し合い、共通理解を持つ。
- * 企画・運営をするプロジェクトと協議会事務局の役割分担の明確化。

6~8. 事前学習について

6-1. 事前学習①『『82年生まれ、キム・ジョン』もう観た?』では、韓国でヒットして日本でも話題になっているチョ・ナムジュ著『82年生まれ、パク・ジョン』の小説と映画について、解説していただきましたが、この小説を読むか、もしくは映画をご覧になったことはありますか?

- ① ある (2 人) ② ない (6 人)

6-2. 上記の事前学習①では、韓国が抱える社会問題の一端が出てきていましたが、理解できましたか?

- ① ほぼ完ぺきにできた (2 人) ② ある程度できた (5 人)

- ③ あまり理解できなかった () ④ ほとんどできなかった ()
 ⑤ その他 (1人:よく聞こえなかった)

6-3. 上記の事前学習①で印象に残っていることがもしあれば、お書きください。

- * ジェンダーの問題は日本も韓国も同じような課題を抱えている。
- * 専門家でもない普通の市民が韓国文化について熟知していることに驚いた。セリフから導く哲学の世界に魅力を感じた。
- * 韓国で行われている女性差別で苦しんでいる女性が多くいること。
- * 世界で韓国文学が高い水準であること、世界の人々に読まれている質の高いものである。また、タイムリーな社会課題に合わせたテーマに即していること。
- * 儒教の国韓国で今も存在する男尊女卑の現状。
- * きちんと映画の背景は理解できたが、あらすじをもう少し詳しく語ってもよかったのでは。

7-1. 事前学習②「지구가 아파요 (地球が痛いです)」では平和生命の丘の理事長の漫画を訳して解説していただきましたが、インジェ郡が取り組んでいる課題やその問題解決に向けての方向性は理解できましたか？

- ① ほぼ完ぺきにできた (4人) ② ある程度できた (4人)
 ③ あまり理解できなかった () ④ ほとんどできなかった ()

7-2. 上記の事前学習②で印象に残っていることがあれば、お書きください。

- * 大量の資料を訳していただき、ありがたかった。現在、手元に資料がないので報告書を楽しみにしている。
- * RCE インジェは産業革命以降の世界の歴史を振り返り、人間が環境に及ぼしてきた影響を伝え、持続可能な社会を農業改革を進めていくという具体的なビジョンを掲げている。思わず、北九州はどうなんだろうと考えこんでしまった。
- * RCE インジェの活動のすばらしさ。
- * RCE インジェが地域の人々と役所が連携することで課題解決に動いている。
- * インジェのRCEは理念がはっきりしている。開始当初から目指す姿を描いている。
- * RCE インジェが描く未来とその実現に向けた実行力。
- * 2030年に向けてすでに新しい村づくりを行っていること。

8-1. 事前学習③「ESD for 2030」では、ESD の概念について改めて学習しました。SDGs との違い、さらにはコロナ禍の中でのアジア・太平洋地区 web 会議の動きが説明されましたが、理解できましたか？

- ① ほぼ完璧にできた (1 人) ② ある程度できた (6 人)
③ あまり理解できなかった (1 人) ④ ほとんどできなかった ()

8-2. 上記の事前学習③で印象に残っているものがあれば、お書きください。

- * コロナ禍でも国際会議に参加されていること、それに学生を巻き込んでいることが素晴らしい。
- * コロナの話題。
- * コロナ禍であれ、いろいろなコミュニケーション・ツールで新たな交流が可能となった。しかし、社会的・経済的に脆弱な地域においては RCE の役割が重要となる、など示唆に富む話であった。
- * 世界中の RCE が温度差はあっても、活動が活発であることが分かった。
- * web 会議の内容は分かったが、ESD や SDGs については話の内容が理解できなかった。
- * ESD は世界でも行われていて、つながっていること。

9. インジェ郡との交流について

9-1. インジェ郡のコロナ禍の中での活動は理解できましたか？

- ① ほぼ完璧にできた (3 人) ② ある程度できた (5 人)
③ あまり理解できなかった (1 人) ④ ほとんどできなかった ()

9-2. 「ほぼ完璧にできた」「ある程度できた」との回答者に対して、その活動の中で印象に残っていることを書いてください。

- * インジェ訪問の際に農業などについて説明を受けていたが、それを実践・調査活動で広げていることが素晴らしいと感じた。
- * 活動がコロナの影響で中断されたが、学校内にあるもので工夫して継続したこと。
- * 訪問時の情報がオーバーラップしているが、やはり、DMZ である。
- * PCR 検査を無料で行っていることなど。
- * 手洗いなどの感染予防教育。
- * online を活用して ESD=多文化家族の子どもへの補習活動を積極的に行っている。

9-3. 紹介ビデオで、インジェがどのような場所か、理解できたでしょうか？

- ① ほぼ完璧にできた (2 人) ② ある程度できた (6 人)
③ あまり理解できなかった () ④ ほとんどできなかった ()

9-4. どの場所が印象的でしたか？二つに○を付けてください

- ① ソラク山（ 6人 ） ② 湿地帯（ 1人 ） ③ バンジー・ジャンプ場（ 2人 ） ④ DMZ 平和生命の丘（ 3人 ） ⑤ 文学者記念館（ ） ⑥ その他（ 2人：自然の景色、アクティビティ施設の充実 ）

9-5. インジェ郡との交流の中で、印象に残っているものがあれば、お書きください。

- * たった一度しか訪問していない私のことを覚えてくださり、人の温かみを感じた。
- * インジェでは初雪が降った日だった。女性の市民活動家の熱意が伝わった。
- * すでに知っている方々が参加されていて、お会いできたことを喜んでくださったように感じ、onlineでも「交流すること」の重要性を認識させられた。
- * インジェ郡の方々が前傾姿勢で興味を示していらしかったこと。
- * 雪が深く、来るはずの人が来られなくて自然の厳しさを感じた。その中で農業をやる覚悟。
- * 自然の豊かさと紹介ビデオの素晴らしさ。
- * 寒くて積雪が多い中をよく交流してくれたこと。

9-6. 今後、インジェ郡との交流で望むことは何かありますか？あれば、お書きください。

- * オンラインも素晴らしいが、インジェの自然と緊張感を実際に多くの人に感じてほしいと思った。
- * 情報交換。
- * インジェの方々の現状に対する考え方や意見を聞きたい。
- * まだ現地に行ったことがないので、実際に現地を訪れたい。
- * 個々の小さい団体との交流を望まれたのでコーディネートが必要である。
- * 今後とも末永く。
- * 特産物を送ってもらい（当然代金を支払う）、フェアを開き、もっとインジェを紹介したい。インジェ特有の料理方法を学ぶ。

10. ドボン区との交流について

10-1. ドボン区との交流は初めてですが、現地の参加メンバーは誰かだったかは把握できましたか？

- ① ほぼ完ぺきにできた（ ） ② ある程度できた（ 5人 ）
③ あまり理解できなかった（ 2人 ） ④ ほとんどできなかった（ 1人 ）

10-2. ドボン区のコロナ禍の中での活動で印象的なものがあれば、あげてください。

- * ESDの教育にとっても積極的だと感じた。

* マスク配布。

* コロナ禍であれ、統制された組織の活動という感じで、活動には支障を感じなかった。

* コロナと関係ないが、教材を学校で行っているところが印象的だった。

* ESD 推進の教育者用読本づくり。

10-3. すでに記憶が不確かだと思いますが、ドボン区の映像の中で訪問したい場所がありましたか？曖昧でもいいので、その場所を表わす光景を書いてください。

環境教育センター、区役所、映画の撮影地、自然、映像は素晴らしかったが、特になし、ドボン山への登山

10-4. ドボン区との交流で印象に残っていることや気になることがあれば、お書きください。

* 自然保全などの環境教育にとっても力を入れているようなので、その部分をもっと聞きたかった。

* 行政の活動は分かったが、市民活動についてもっと知りたかった。

* まだ公式には訪問していないが、心から受け入れていただき、温かい感じがあった。

* 現地の方がとても明るかったことと興味が惹かれる活動や風景が多かったこと。

* ドラマの話始めてから、相手の懐に飛び込んだ感じがした。

* RCE 認定までの経過。

* 参加者全員が生き生きとした顔をしていた。ドラマが好きだと思った。

11. グローバル・アリーナの施設について

11-1. 交流会で使ったホールはいかがでしたか（音量、映像、座席数、明るさ、換気など）

① 非常に良かった（ 3人 ） ② まあ良かった（ 3人 ）

③ 良くも悪くもない（ 2人 ）

④ あまり良くなかった（ ） ⑤ 非常に悪かった（ ）

11-2. お気づきの点があればお書き下さい。

* 宋さんはじめ、スタッフの方がとても親身に対応してくれた。

* スクリーンの場所などを検討いただければと思った。

* こういった時期なので、もっと換気に気をつかうべきだった。

* Web に会場全体が映せていないと思う。つまり、online を想定していない会場だと思う。

* 参加者が増えていたら、コロナ対策の面で十分ではなかった。

11-2. 会場へのアクセスについて

- ① わかり易かった (3人) ② わかり難かった (3人)
③ どちらでもない (2人)

11-3. 寝室はいかがでしたか？

- ① 非常に良かった (4人) ② まあ良かった ()
③ 良くも悪くもない () ④ あまり良くなかった ()
⑤ 非常に悪かった () ⑥ 宿泊していないのでわからない (4人)

11-4. 食事はいかがでしたか？

- ① 非常に良かった (4人) ② まあ良かった ()
③ 良くも悪くもない () ④ あまり良くなかった ()
⑤ 非常に悪かった () ⑥ 食事をしていないのでわからない (4人)

11-5. 今回は、「go to トラベル」や福岡県地方クーポンを利用しましたが、宿泊施設や食事などのサービスに対して費用はいかがでしたか？

- ① 非常に満足 (4人) ② 満足 ()
③ やや不満 () ④ 全く不満 ()

12. 新型コロナ感染予防について、個人では十分に気を付けていましたか？特にどのようなこと事柄に留意していましたか？

- *手指の消毒、飲食をできるだけ控える。
- *手洗い、マスク着用を心がける。
- *3密を避ける、換気をする。
- *マスクをきちんと着用することと気づいたときに換気のために窓を開けること。
- *風邪をひかないようにした。
- *交流では相手に表情が見えるようにフェイスシールドを着用、手洗いと消毒を行った。
- *食事中の会話は、手で口を押えるか、マスクを着用した。
- *マスクを着用する。

13. 今後の online 交流について

13-1. 今後、直接訪問したり、受け入れたりするのを除き、どれぐらいの頻度で online での交流をしたほうが良いと思いますか？

- ① 2か月に1回=年6回 () ② 4か月に1回=年3回 (2人) ③ 半年
に1回=年2回 (3人:異なったRCEと) ④ 1年に1回 (2人)
⑤ 増やしてもっと交流をしたい・韓国を知りたい (1人)

13-2. その際にどのようなテーマを取り上げたいですか？自らの考えを最大3つまで優先順位を付けて記してください。また、特定のRCEがあれば、記してください。

第1位：平和、ESDに関する市民活動=インジェ、ジェンダーなど差別問題、

文化、各RCEに任せる、コロナ状況、学校教育

第2位：教育、性別役割分業、環境、くらし、多文化家族政策

第3位：ジェンダー、生活文化、歴史、子どもたち

{2つしかない方は2つに留めておく}

特定のRCE：(インジェ) (ドボン区) (トンヨン)

14. 最後に、このonlineツアーを通じて学んだことは何ですか？最大3つまで記すことが可能です。

- * コロナ禍の中で実行するすばらしさ。
- * 現地に訪問するより具体的にRCEの実践が分かった。
- * 準備が大変だったと思うが、onlineで十分に交流ができ、学びあえるということ。
- * 身近な生活の中にあるテーマこそがグローバルな課題を含む。
- * オンラインでは特に用事がなくても気兼ねなくつなぐことができそう。
- * onlineを通じて交流は十分に期待できる。
- * 韓国語をもっと学んで実際に会話したいと思った。
- * 会員の方々をより深く知るチャンスとなったこと。
- * RCEとして対応してくれたので、こちらもRCEとして自信を持ったほうがいいのか？
- * かしこまる必要がない、普段着でやることができる。
- * 時間や金銭を節約でき、回数を重ねることが容易となり、交流・学べる回数を増やすことができる。
- * 韓国でとられているコロナ対策。
- * 韓国の環境、社会問題に対する見解。
- * 実際の韓国の方の雰囲気。

15. その他に気づいたことがあれば、なんでも書いてください。

- * チラシには「参加費 8000 円」とあったが、140 円多く徴収され、協議会事務局が発行した領収書も 8140 円になっていた。事務局に説明を求めたが、いまだに回答がない。※140 円は後日返却予定。

*1つの目標を達成するために、できる人ができることに、それぞれが自主的に参加できてとてもよかった。リーダーをはじめ皆さんに感謝します。onlineではグループディスカッションができればよかったとも思った。

*このアンケートの様式が記入しにくいので、グーグルフォームズ等を利用したほうが良い。

16. 韓国以外に交流したい国はありますか。あれば希望国をお書き下さい（いくつでも）。

台湾：2人、中国：2人、タイ：1人、フィリピン：1人、インド：1人、

スペイン：1人、チリ：1人、ペルー：1人

■アンケート講評

回答数は10人中8人と少ないですが、質問項目は韓国訪問経験・更なる訪問先希望、事前学習、当日の交流、総合評価、会場（場所・施設・食事など）、事前の取り組みなど改善点等も含めて多岐に亘り、内容豊かな調査となり、今後の交流事業に有用なものとなりました。

初めてのOnline交流でしたが、当日の交流は総合評価で10点中7.75点と高く、事前学習も「非常に役立った」(5人)「まあ役立った」(3人)を合わせて全員が「役立った」と答えており、また、会場についても特に宿泊・食事の満足度が高く、今回の交流事業は総じて「成功」であったと言えるのではないのでしょうか。紙幅の関係上、詳細はアンケート回答集計をみてください。加えて、未回答者の意見、特に改善点などに耳を傾け、今後の企画に生かし、より有意義な交流事業を展開したいと思っています。(花崎 正子 評)

今回アンケートにお答えいただいた韓国に多岐にわたる強い興味関心を持っている方々でも事前学習は本番のonlineツアーに役立ったと回答しておられました。理解度は、RCEインジェの漫画、『82年生まれ、キム・ジョン』、ESD for 2030の順でしたが、個別の記述をみると硬軟取りまぜた学習のどれもが呼び水となって当日の理解に繋がったことが伺い知れます。実際の交流は総合評価で10点中7.75点と、初めてのonlineとしては及第点ではないのでしょうか。グローバルアリーナの宿泊・食事は大変満足度が高く「go to トラベル」を利用できたことも一因であったことでしょう。過去の韓国スタディツアーとの比較を含め、良かった点・改善点等お聞きできたことを、今後の企画に生かしてまいります。

(細井 陽子 評)

参加者が韓国にいかに関心を持っていて、直接行けなくても、韓国の人々と関係を深め、新型コロナ禍での状況を知りたいとの熱い思いが見受けられました。北九州から少しだけ離れた会場でしたが、グローバル・アリーナの施設内の環境も良く、コロナ感染予防対策も万全（一部不十分との声もありますが）で、食事もおいしかったと参加者の大半は感じ取っています。また、online交流会で学んだこととしては、新型コロナ禍でも交流が可能であること、新型コロナ禍でも頑張っていることが理解できたこと及び韓国のRCEの会員の表情がはっきり見え、さらに深く知る機会になったこと、時間とお金が節約できたことなどの回答が多々ありました。

このようなonline交流は今後も年2~3回はしたいとは参加者の大半の思いであり、年に1回の韓国への訪問や韓国の皆さんの受け入れにあたっては、online交流を通じて事前にもっと深い信頼関係を築けることと思います。今後のonline交流（ESDツアー）は、北九州ESD協議会が中心となって継続して行い、国内の他のRCEのメンバーや北九州ESD協議会の会員にも広く宣伝し、数多く参加してもらうことが必要でしょう。(三宅 博之 評)



オンライン交流が無事終わり、笑顔で韓国側にお別れをする北九州の参加者。

<編集後記>

皆さんから送られてきた原稿すべてに目を通すことができず、ロンリー川島（エコ博士）にまかせっきりになってしまいました。（陳謝+感謝）。

原稿提出も遅れて足を引っ張ることに…。今日やれることは明日に延ばすな！編集委員皆さんのお陰で何とか仕上がりました。（ミヤッキー）

今回の会場となったグローバルアリーナで頂いた夕食のメニューは韓国風会席定食。RCE インジェを訪れた際によく食べた「釜めし銀シャリ」をはじめとする懐かしいものばかり。焦げ付いたご飯に白湯を入れ、オジヤにして食べた当時を真似てみた。旨かった。（川島）

いま全体を読み通して、溢れんばかりの情報量と内容の豊かさに圧倒されます。前々から皆さん凄いなと思っていたけど感服！特筆すべきは書き起こしを発注したブルーアースさんが給料の数倍のお仕事なさってること。カムサハムニダ。（細井）

8月23日、会議がままならないコロナ禍ゆえにLINEグループを立ち上げました。そこでは毎日のように熱い議論が交わされ、半年かけて事業を実施したプロセスが刻まれています。ありがたいことに、韓国に留学した学生さんがドボン区での体験記をシェアしてくださることになり、バーチャルな学びの場は今も継続中です。最後になりましたが、原稿をお寄せくださった皆様、ありがとうございました。（後藤）

2020 on-line 韓国スタディツアー報告書

2021年3月31日発行

編集 北九州 ESD 協議会 調査研究・国際プロジェクト

発行者 北九州 ESD 協議会

住所 北九州市小倉北区魚町3丁目3-20

電話 (093) 531-5011